社会開発調査部報告書

No.2

ジョルダン国 観光・遺跡省

国際協力事業団

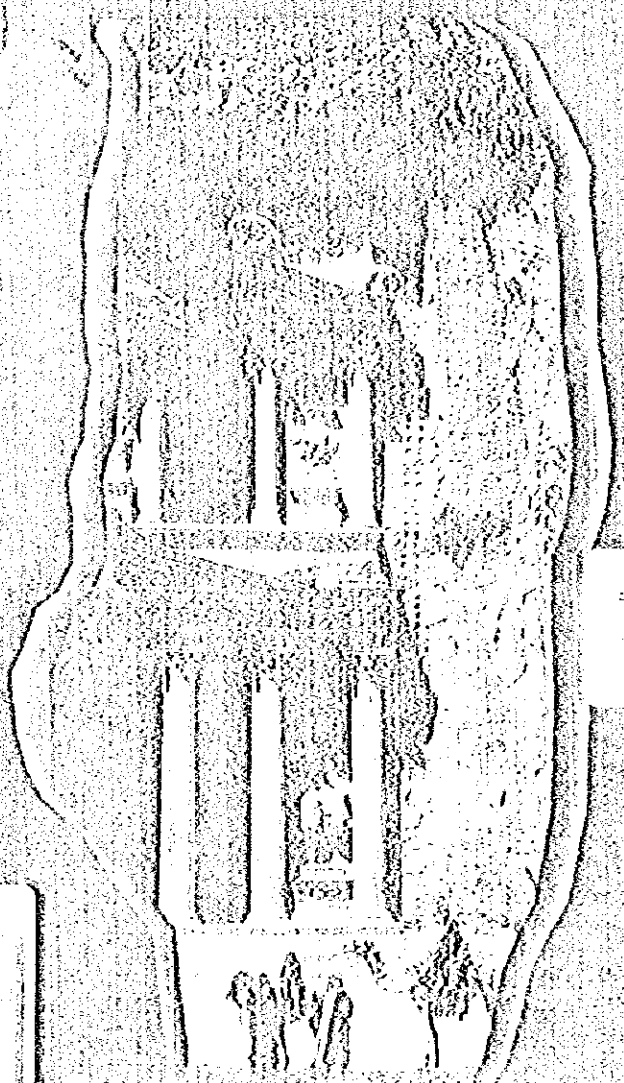
ジョルダン国観光開発計画調査

JORDAN

要約版

最終報告書

平成8年2月



日本工営 株式会社
株式会社 パデコ
株式会社 地域計画連合

ジョルダン国　観光・遺跡省　　国際協力事業団

ジョルダン国観光開発計画調査

JORDAN

要約版

最終報告書

平成8年2月

日本工営株式会社
株式会社パデコ
株式会社地域計画連合

英文報告書一覧

TITLE

- EXECUTIVE SUMMARY

- PART 1(VOLUME 1): NATIONAL TOURISM DEVELOPMENT STRATEGY AND POLICY (TOURISM DEVELOPMENT)

- PART 1(VOLUME 2): NATIONAL TOURISM DEVELOPMENT STRATEGY AND POLICY (SECTORAL DEVELOPMENT)

- PART 2 : DEVELOPMENT PLANS FOR PRIORITY AREAS

本調査では下記の外貨交換率を使用した。
（１９９６年２月現在）
US $ 1.0 = 0.708 Jordan Dinar (JD)

序　文

日本国政府は、ジョルダン・ハシュミット王国政府の要請に基づき、同国の観光開発計画にかかる開発調査を行うことを決定し、国際協力事業団がこの調査を実施いたしました。

当事業団は、平成６月１２月から平成８年１月まで日本工営株式会社副社長の吉松昭夫氏を団長とし、同社、株式会社パデコおよび株式会社地域計画連合から構成される調査団を現地に派遣しました。

調査団はジョルダン政府関係者と協議を行うとともに、計画対象地域における現地調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、ここに本報告書完成の運びとなりました。

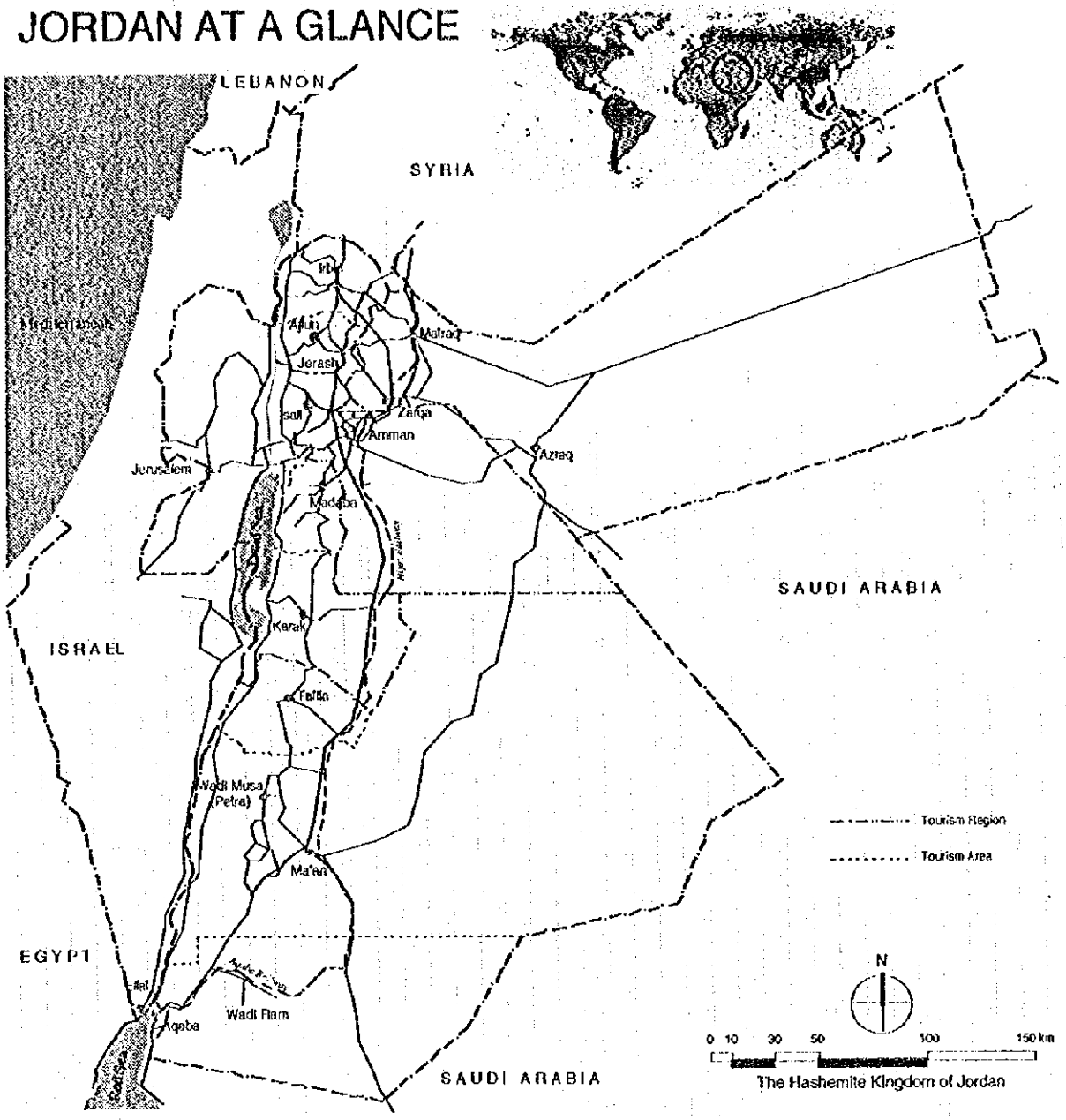
この報告書が、本計画の推進に寄与するとともに、両国の友好・親善の一層の発展に役立つことを願うものです。

終りに、調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成８年２月

国際協力事業団
総裁　藤田　公郎

JORDAN AT A GLANCE



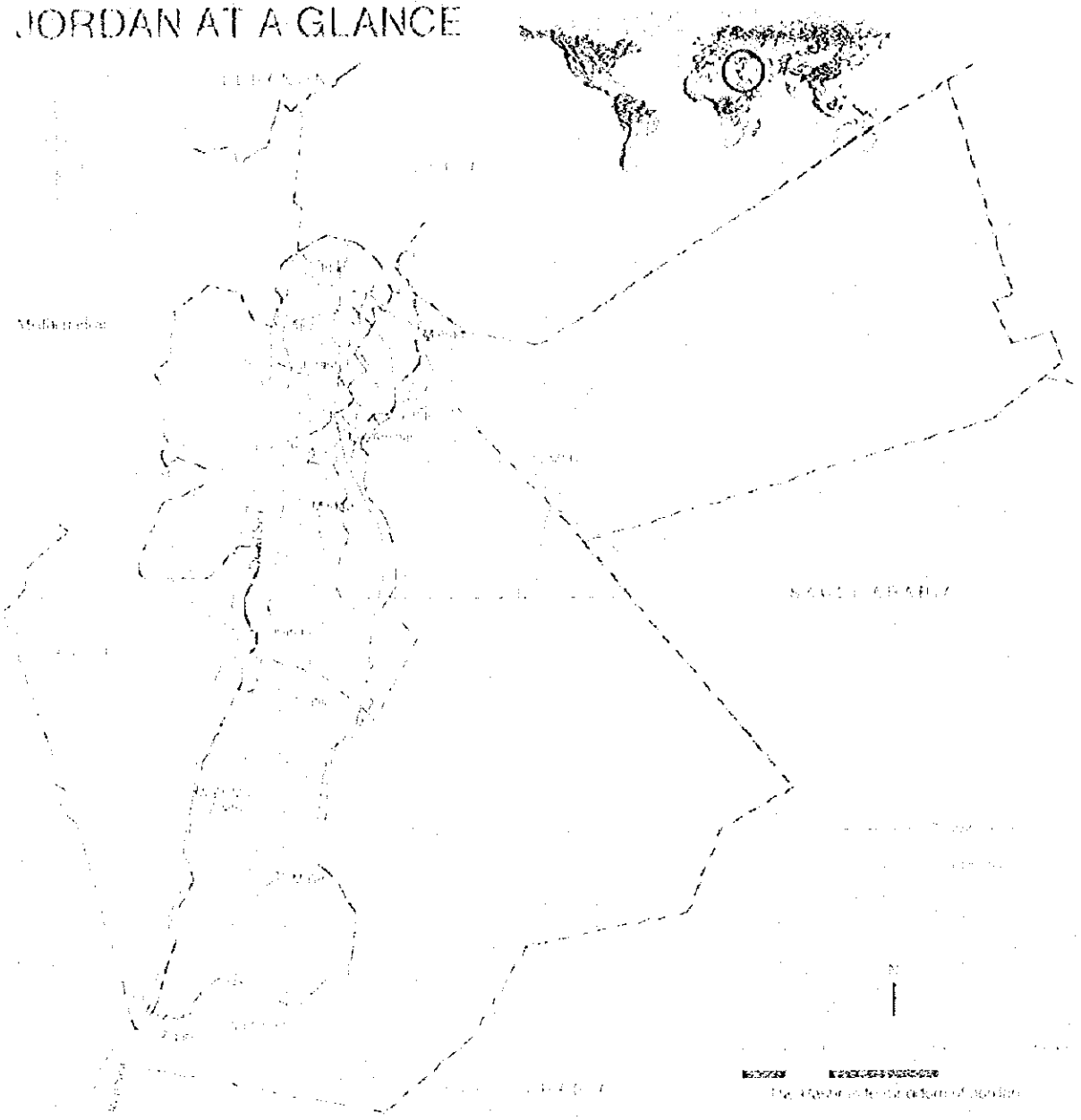
Independence	25 May 1946
Form of State	Constitutional Monarchy
Capital	Amman (Population 1,568,000 in 1994)
Area	89,000 square km (80%: Desert, 20 %: Highland)
Population	4,095 thousand (1994)
Language	Arabic (English, French)
Religion	Islam (93 %) Others (7 %)

	1991	1992	1993
Population (thousand)	3,453	3,949	4,102
GDP (US$ million)	3,881	4,406	4,893
GDP per capita (US$)	1,120	1,130	1,190

Source: World Bank

調 査 対 象 地 域

JORDAN AT A GLANCE



[illegible]	25 May 1946
[illegible]	Constitutional Monarchy
[illegible]	Amman (Population: 568,000 in 1994)
[illegible]	88,000 square km (80% Desert, 20% Highland)
[illegible]	4,096 thousand (1994)
[illegible]	Arabic (English, French)
[illegible]	Islam 93% Others 7%

	1991	1992	1993
Population (thousand)	3,453	3,949	4,102
GNP (US$ million)	3,881	4,406	4,893
GNP per capita (US$)	1,120	1,130	1,190

Source: World Bank

調 査 対 象 地 域

ジョルダン国観光開発計画調査

調査期間：1994年12月～1996年2月
受入機関：ジョルダン国観光・遺跡省

概　　要

1．調査の背景

1994年時点で外国人旅行者によってもたらされた外貨の総額は約6億63百万米ドルにのぼり、この額は同年の商品輸出総額の半分以上を占めている。観光業は産業としてジョルダン経済の重要な位置を占め、主たる外貨獲得源となっている。国際観光がもたらす波及効果は約4億9千万ジョルダン・ディナール（JD）に達する推定されており、これは建設業界や農業セクターの生産額を大幅に上回るものである。また産業として観光業は大きな雇用吸収力を持っている。ジョルダン国にとって観光業はこのように重要な基幹産業であるにもかかわらず、その観光資源の開発・利用はきわめて不十分なもので国際水準に達していない。観光受け入れ施設、振興体制も未発達で十全なものではない。中東和平の進展をうけてジョルダンを来訪する外国人観光客の急増が見込まれている。受け入れ体制の不備に起因する環境破壊、遺跡破壊等が危惧されるなか早急な対応策の構築が求められているところである。

2．調査の目的

本調査は、中東和平の枠組みの中で「地域協力を基礎とする観光開発」の一環として実施されるものである。本調査の基本的なアプローチは、急増する観光需要が環境破壊や遺跡破壊等を惹起しないよう、また観光開発による経済成長がパレスチナ人を含めジョルダン国民の生計および生活環境の改善に資するような観光開発計画を提案することにある。このような基本的な認識のもと、本調査は目的として下記の２項目を掲げた。

（１）目標年次を2010年としたジョルダン全国観光開発戦略を策定すること、および
（２）この観光開発戦略に沿って選定される優先整備ゾーンについて、目標年次を2000年とした観光開発計画を策定すること。

また、観光開発および遺跡保存等のための制度的方策について提案することも本調査の目的に含まれている。

3．調査対象地域

全国観光開発戦略の策定においてはジョルダン全土を調査対象とする。2000年を目標とした開発優先整備ゾーンの観光開発計画では、アンマンーアカバに至るキングスハイウェイ沿いの地域(西限を死海およびワディ・アラバ、東限をデザート・ハイウエイ)で、ワディラムおよびムダワラ（サウジアラビア国境に隣接）を含む地域より選定する。本調査においては分析・検討の結果、優先整備地として中央地域からアンマン、西部地域からマダバ／死海地区、バルカ地区およびカラク／死海地区が観光開発プロジェクトの対象地域として選定された。

4．観光開発の目的と戦略

フェーズⅠで行ったジョルダン国の観光セクター等の現況分析、課題の検討を踏まえ2010年を目標年次とした観光開発戦略の原則として下記の四原則を設定した。

（1）観光セクター（ジョルダン経済の「石油」）の重要性の認識
（2）遺跡中心の観光から幅広い文化観光への転換
（3）観光資源の積極的な保全
（4）官民それぞれの役割の認識

また、この四原則を踏まえ、観光開発の七つの戦略を本調査では採用した。

（1）地域ごとの開発可能性に応じた段階的な開発 (Staged Development)。
（2）観光の「中核」（Tourism Core）と「回廊」（Tourism Corridor）の形成。
（3）新しい観光プロダクトと観光ルートの開発。
（4）新しい市場の開拓。
（5）インフラとサービスの整備・改善（交通、上下水道、環境衛生など）
（6）人材開発（公営訓練施設の充実、民営施設の新設）
（7）環境保全対策の強化

5．全国観光開発計画の概要

5－1 観光開発のフレーム

本調査では10の観光エリアについて宿泊施設等の需要予測を行った。この需要予測においては3つの成長シナリオを想定した。「シナリオA」は現状維持型で特に政府の観光セクターへのてこ入れ支援が期待できない現状推移の場合、「シナリオB」は2000年以降政府が積極的に観光セクター支援策を実施し、観光セクターの成長が推進される場合で、また「シナリオC」はシナリオBの場合よりもさらに強力な開発施策を政府が実施した場合を想定している。このような条件を踏まえ観光開発フレームを下記のように設定した。

シナリオ別の宿泊客数の予測

シナリオ	1995	2000	2050	2010
シナリオ A	1,155千人	1,474千人	1,837千人	2,182千人
シナリオ B	1,155千人	1,546千人	1,973千人	2,400千人
シナリオ C	1,155千人	1,620千人	2,168千人	2,767千人

検討結果として開発フレームは「シナリオB」が選定されたが、1995年から2000年の5年間において毎年約850室のホテル客室の建設が必要となる。

5－2　全国観光開発政策

面的開発政策

首都アンマンは国際ゲートウエイとして、また、中部大観光ゾーンのコア(中核)として開発されるべきである。死海はリゾート性を持つ一つのコアとして開発される。南部大観光ゾーンのペトラ、ワディラムおよびアカバは「黄金の三角地帯」を形成する。アカバは第2の国際観光ゲートウエイ・観光コアとなり、ペトラ、ワジムサ地域はそれに付随する中規模観光コアとなる。

観光プロダクト開発（注1）

- 観光対象・プロダクトの開発と改善につとめ、変化する観光客の志向に応える。
- 観光素材・プロダクトの多様化をはかり、国際観光市場でのジョルダンの競争力を強める。

注1：観光プロダクト（Tourism Product）は近年、観光・旅行業界で多用されている新しい概念で、狭義には従来の観光地、名所・旧跡、景勝地といったTourist Attraction・観光対象に代えて、これらを包括したうえに、近年の観光行動の対象として大きな比重を占める人工的につくられた観光対象・活動（テーマパーク、文化・民族祭事、ソフトアドベンチュア・スポーツなど）を含む。従来の観光地、名所・旧跡、景勝地であっても、現代の観光に不可欠な一連の基本的な観光情報・サービスの仕組み（Visitor Facilitationと呼ばれている諸施設・資料・サービスの組み合わせ）を備えているときには、Tourist Attractionの段階を卒業して観光プロダクトとなりうる。
広義の観光プロダクトは、国際観光市場における一つの観光目的地（Destination）を指す場合もあり、例えばエジプト・ピラミッド観光とジョルダン・ペトラ遺跡観光と観光プロダクトとしてどちらが魅力的で国際市場で競争力があるか、といった使い方をする。

観光情報とサービス提供

- 新しい情報・資料の開発とその提供システムの改善につとめ、来訪客の観光体験の満足度を高める（例：非現実的な既存の観光宣伝パンフレットの抜本的改善－海外宣伝用と観光地／現地用との分離、内容・表現の改善、旅行会社用の販促マニュアル作成、ビジターセンターの新設・改善）。
- 質の面での観光サービスの向上をはかり、ジョルダン観光を国際市場の期待に応えるものとする（例：国際水準に合致しないホテル等級付けの改善、ホテル、バス、観光ガイドのサービス訓練の強化）。

販売促進

- 従来からの主要送客市場（ヨーロッパ）での販売促進を一層強化する（例：WTBのロンドン、ITBのベルリンでのフェア等の旅行トレードフェアへの定期的参加、それを補強する実務的なアフターセール販促活動の定期的展開）。
- 市場・観光客の変化を察知して、新規市場（地域別・商品別）の開拓に努める（例：地域別では東アジア、イスラム圏、東南アジアなど、商品別では文化・民族を打ち出した観光プロダクト、セミナー・小会議の誘致）。
- 新商品・提案を含む効果的な販売促進策を展開し、国際観光市場での競争力を維持する（例：単に旅行トレードフェアに参加するのではなく、上記のような新商品に新しいジョルダンの楽しみ方の提案ーセミナーの誘致にペトラ観光を組み合わせるーをジョルダン・セールスキャンペーンのような形で展開する）。

観光振興・宣伝

- 送客国の旅行業界と一般顧客に対するジョルダンの観光イメージを高める（例：国営航空RJとの連携を強化し、その予約販売網を活用してジョルダン観光の情報を提供する）。
- 効果的な宣伝手法の組み合わせにより、ジョルダンへの潜在顧客を掘り起こす（例：RJ以外の主要国際航空会社ーAir France, Alitaliaー、主要送客国の旅行会社ーBritish Airways、Holiday Air France Jetourなどに連携・協力を求め、ジョルダン側の資金・ノウハウ不足を補う）。

観光関連産業（特に土産品と一般的買い物）

- 良質で魅力的な土産品・買い物商品の開発により、新たな観光収入増加の道をひらく。
- 効率的、魅力的な小売りサービス業を育成し、観光収入の増加に寄与する。

支援インフラストラクチャー

ジョルダン観光のさらなる発展には交通システムの改善が必要である。長期的には南北の移動は3本の道路で分担すべきである。現在不足している東西移動路が早急に必要である。歴史的なヒジャズ鉄道の修復は真剣な検討に価する。

上水の供給量は、このまま何の対策も講じなければ2000年頃には需要量を下回るものと推定される。問題解決の鍵は水のリサイクル利用である。各産業セクターへの水の分配量変更も必要である。地方村落の観光開発では、EIA（環境影響評価）の一部として水の需要・供給分析が必要である。下水・雨水排水についても同様の分析が必要である。

観光情報システムでは、現在観光・遺跡省が実施しようとしているコンピュータ情報マネージメントシステムに加えて、一般観光客向けの情報システムの導入が望まれる。

行政組織および制度

観光・遺跡省による全国観光開発マスタープランの策定と政府の承認が必要である。観光・遺跡省を改組し(観光政策局の創設、観光開発局の強化)、地方事務所機能を強化する必要がある。上級観光審議会を改組し、議長職は首相が務め、事務局は観光・遺跡省政策局の担当とする。

観光・遺跡省の予算として、観光セクターの重要性に見合う額を確保する必要がある。地方自治体が関わる観光プロジェクトについては補助金制度の導入が望まれる。

ホテル等級とレストランメニューに関する規制を廃止することが望ましい。民間セクター観光開発に対するTwo-Stepローンの適用が必要である。

遺跡保全

遺跡局機能強化の一環として、遺跡局に一部遺跡の利用権を付与し、それにより生じる収入を遺跡保全に充当する。

国立公園の設置や管理は別の国家機関が行うことが最善と思われる。仮称「王立公園管理局」（Royal Park Service）設立の提案をする。同様に博物館の研究・社会教育機能強化をめざして「王立博物館付属研究所」（Royal Museum Institute）を提案する。

アンマン、サルト、マダバ、カラク・イルビット等の古い市街地・集落の景観・建築物は新しい観光プロダクトの貴重な素材である。その保全を支援する制度・仕組の構築が早急に望まれる。また、観光資源、特に考古遺跡については地震対策を検討すべきである。

地域社会への配慮と女性参加

観光・遺跡省は観光開発が地域社会にもたらす利害について十分な広報・教育活動を行い、住民意識の向上を図る必要がある。

観光開発に対する地域住民の過度の期待と不安を除去し、観光業に積極的に参加させるためには、地域社会との対話が不可欠である。保守的な地域では女性の活用・雇用に十分な配慮・注意が必要である。

人的資源開発

ホテル訓練学校は観光産業のニーズを満たすものでなければならない。土産品開発・振興は地域での工芸指導・教育活動(視聴覚教材の活用)を柱として進める。ジョルダン大学およびヤルムーク大学の考古学科は博物館運営・管理に役立つ人材を育成に努める。

環境保全

優先事項は以下のとおりである。

- 自然環境の保護・保全
- 既存の自然環境保護地区の管理強化

- 野性動植物調査と社会調査
- 環境関連NGOへの技術・資金援助
- 環境保護教育

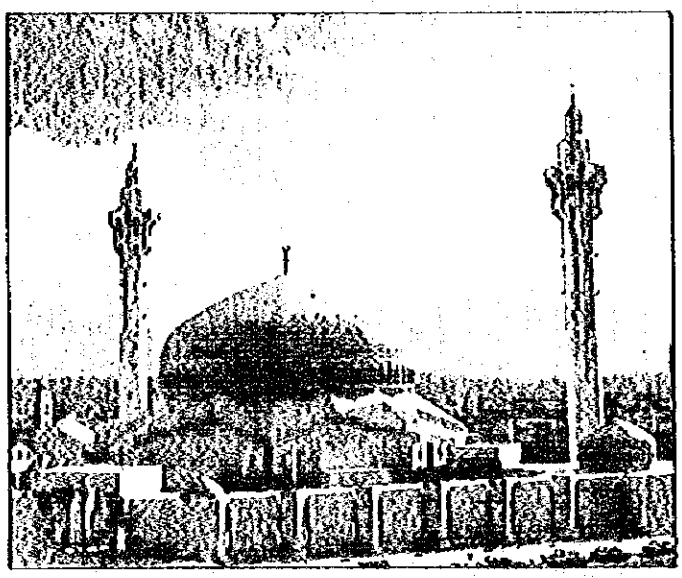
6．観光開発プロジェクトおよびプログラム

第１段階調査の結果を踏まえ、第２段階の調査に選択された優先観光開発エリアは下記の４ヵ所である。

中央地域：アンマン地域
西部地域：マダバ／死海地域、バルカ地域およびカラク／死海地域

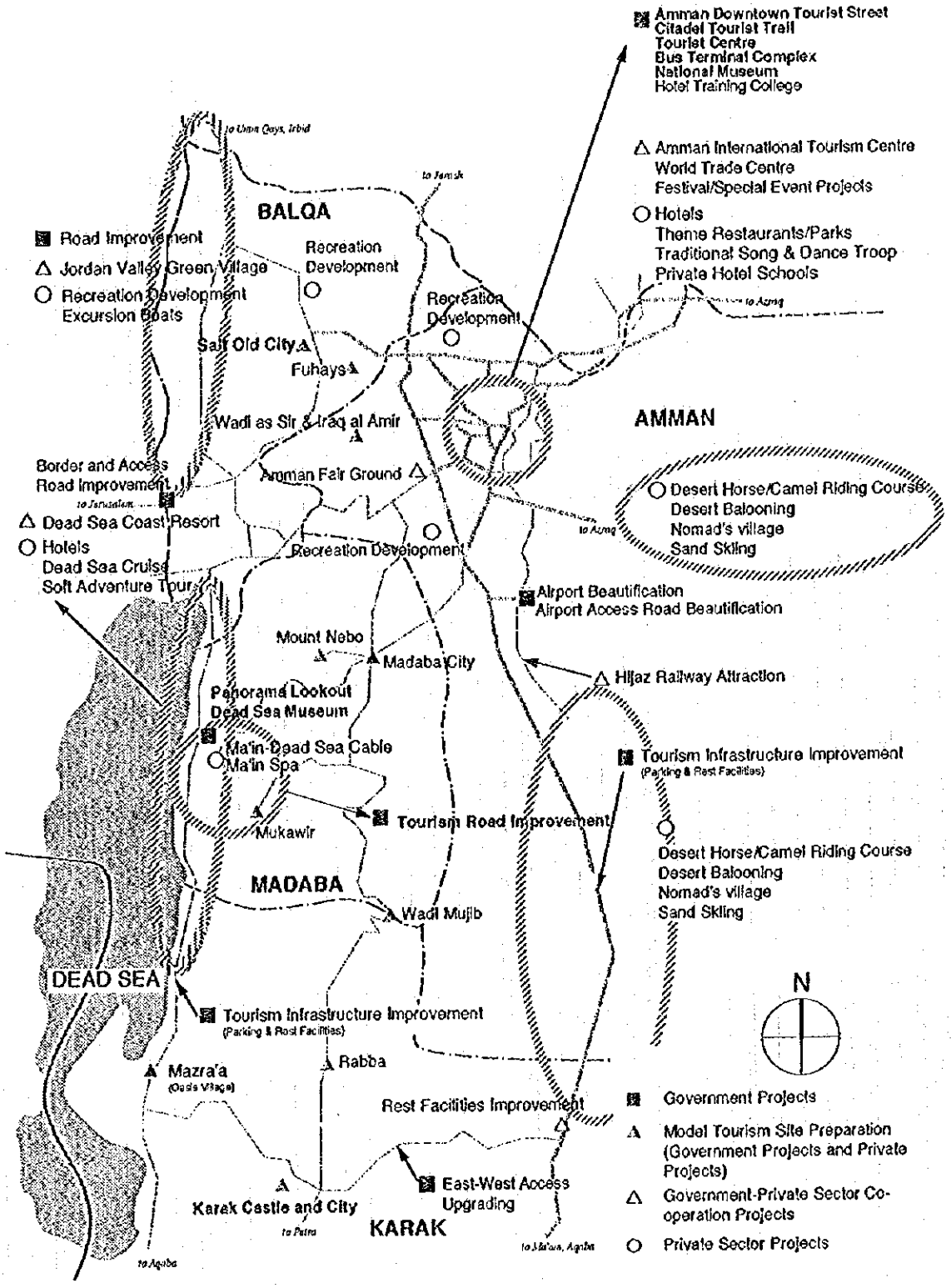
政府、官民協力および民間セクターによって実施可能な、相当数（計３２）のプロジェクト／プロジェクト群が選定された。図－１はその地域的配置を示す。

その中から、６つのプロジェクトを詳細な調査対象として選定した。これらは今後の事業化調査の基礎となるのみならず、ジョルダン観光開発のモデルプロジェクトとなるものである。図－２は観光開発の開発方針、開発戦略および選定されたモデルプロジェクト間の関係を示している。外国からの援助対象としての適合性も選定にあたって考慮に含めた。

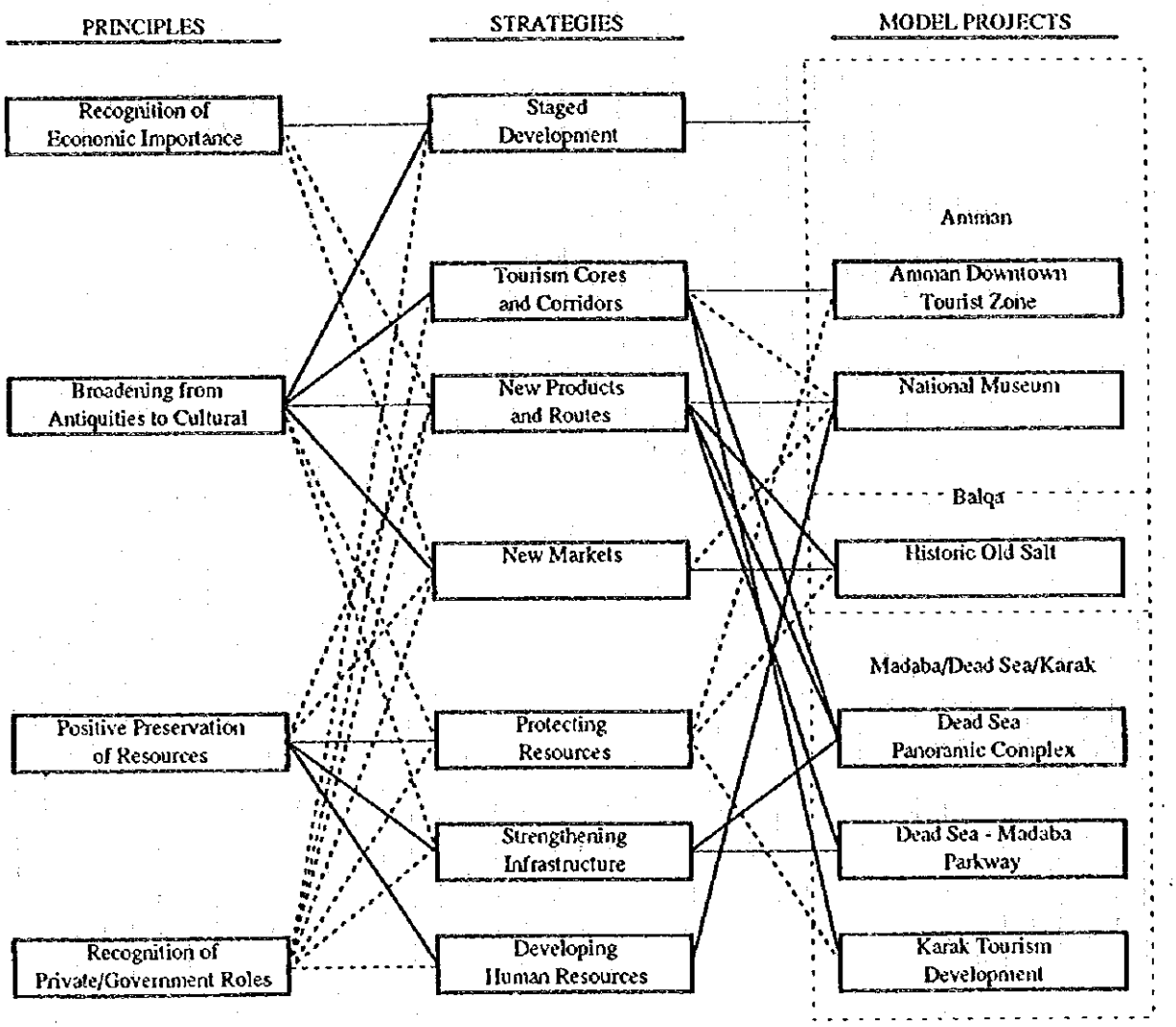


The King Abdullah Mosque

図－1　選定地における実施可能なプロジェクト



図－２　観光開発の原則、戦略およびモデルプロジェクト



7．モデルプロジェクト

7－1　アンマン・ダウンタウン観光ゾーン

コンセプト：アンマンを国際的に通用するジョルダンの観光の核にする。ＵＳＡＩＤはプロジェクト地域内の「シタデル」整備を実施している。本プロジェクトは進行中の整備プロジェクトと補完関係をなすものである。

構成：a.　ツーリスト・ストリートの形成（2.3百万米ドル）

b.　観光遊歩道の導入（2.5百万米ドル）

c.　旧市庁舎の修復活用（歴史資料館・ツーリストセンターとして）（2.3百万米ドル）

d.　バスターミナル・コンプレックスの建設（12.7百万米ドル）

e.　ツーリスト・インフォメーションセンターの設置（0.7百万米ドル）

f.　観光サービスの管理者・従業員の研修（0.3百万米ドル）

註：（　）内の数字は指標としてのプロジェクトコスト

実施５ヵ年計画

Amman Downtown Tourist Zone	96	97	98	99	2000	US$ million
a. Tourist Street						2.3
b. Tourist Trails				District Office	Museum	2.5
c. Municipal Museum						2.3
d. Tourist Bus Terminal						12.7
e. Information Centre	Interim				Permanent	0.7
f. Training				Overseas	Domestic	0.3
Cost in US$ million	0.9	1.8	8.8	7.8	1.5	20.8

B/D　D/D　Implementation

7－2　国立博物館

コンセプト：アンマン中心部、計画中のシビックセンター地区に国際水準の国立博物館を設立する。国立博物館委員会は建物の設計前に、展示の内容、種類、方法など詳細計画を決定する必要がある。

構成：a.　博物館の建造（躯体および内部設備：13.5百万米ドル）

－来訪者サービス部門：エントランス・ホール、クローク、ミュージアム・ショップ、カフェテリア、ラウンジ、トイレ等

－展示部門常設展示、企画展示、屋外展示スペース等

－展示支援部門：荷解きスペース、収蔵庫、スタジオ、工作室、他

－研究部門：図書室、セミナールーム、等

ー管理部門：事務室、守衛室、等

ーその他：廊下、機械室、等

b. 学芸員および他の博物館管理人材の育成（1.0百万米ドル）

必要面積は延べ6,670平方メートル、概算コストは14.5百万米ドル。

実施５ヵ年計画

National Museum	96	97	98	99	2000	US$ million
a. Building construction						10.0
(F.F.E)						3.5
b. Human Resources				Training	Training	1.0
Cost in US$ million		0.4	0.5	4.8	8.8	14.5

B/D　D/D　Implementation

７－３　サルト歴史地区修景プロジェクト

コンセプト：ジョルダンで初めての、歴史・文化・民俗を特色とした新しい観光プロダクトを創り出す。イタリア援助の工芸センターも本プロジェクト・コンセプトに統合される。

構成：a. ビジターセンター：由緒ある歴史的な建物アブ・ジャベルをビジターセンター、歴史資料館、工芸ショップ、既存店舗を含むコンプレックスとして修復する（2.3百万米ドル）

b. 公共空間の修景、観光標識、モデル遊歩道、展望台、ベンチの整備（5.0百万米ドル）

c. 観光サービスの管理者・従業員の研修（0.3百万米ドル）

実施５ヵ年計画

Historic Old Salt	96	97	98	99	2000	US$ million
a. Visitor Centre						2.3
b. Tourist Trails				Model Trails		5.0
				Nodes		
					Panorama	
c. Training				Overseas	Domestic	0.3
Cost in US$ million	0.2	0.6	4.1	2.6	0.1	7.6

B/D　D/D　Implementation

７－４　死海展望台コンプレックス

コンセプト：死海の観光地としての魅力を高めるために、これまで死海に欠けていた観光対象・施設・アメニティを整備する。本プロジェクトはジョルダン渓谷開発庁の死海東海岸開発マスタープランを補完するものである。

構成：a. 死海展望台・レストハウス－展望スパを備えたレストハウス（9.6百万米ドル）

b. 死海資料館：最新の疑似体験劇場を備えた死海の展示（2.1百万米ドル）

c. ケーブルカー：死海海岸ザラ・マイン温泉を結ぶケーブルカー（6.0百万米ドル）

d. インフラ整備：水供給、下水処理、ごみ処理等（1.7百万米ドル）

e. 観光サービスの管理者・従業員の研修（N/A）

実施５ヵ年計画

Dead Sea Panoramic Complex	96	97	98	99	2000	US$ million
a. Rest House (with Panorama Spa)						9.6
b. Dead Sea Museum						2.1
c. Cable Car						6.0
d. Infrastructure						1.7
Cost in US$ million	0.5	0.7	6.7	11.5		19.4

B/D　D/D　Implementation

７－５　死海・マダバ・パークウェイ

コンセプト：死海海岸・キングスハイウェイを結ぶ連絡道路を開き、新しい観光周遊ルート・観光体験を創り出す。ジョルダン渓谷開発庁・死海東海岸マスタープランは数本の東西連絡道路を提案している。本プロジェクトはそのひとつを実現するものである。

構成：３つのルートが可能である。

－　死海－マイン

－　マイン－ムカウィール

－　ムカウィール－死海

第一ルートが最も緊急に必要である。４つの路線案を検討し、最も適切なものを採用した。

仕様　長さ：13.0キロメートル、最大勾配：10.0%

舗装：車道3.6×2メートル、路肩　3.0×2メートル

概算コスト：7.5百万米ドル

実施５ヵ年計画

Madaba - Dead Sea Parkway	96	97	98	99	2000	US$ million
a. Planning and Design						0.9
b. Road Construction						6.0
c. Landscape and Supporting Facilities						0.6
Cost in US$ million	0.2	0.2	0.2	4.2	2.7	7.5

B/D　D/D　Implementation

7－6　カラク観光開発

コンセプト：カラクの観光地として魅力を増すために、これまで欠けていた観光施設・アメニティを設ける。

英国は城内・市内の観光標識設置プロジェクトを実施予定。ＵＳＡＩＤ・ＣＥＲＭプロジェクトはカラク城と町の外周城壁の修復を実施予定。ともに本プロジェクトを補完するものである。

構成：a. カラク城の展示改善－見学者順路の整備と十字軍に関する展示（2.4百万米ドル）

b. ツーリスト・ストリート：カラク城からアル・マリク通り、サラディン像、市庁舎までの通りを石畳舗装のツーリスト・ストリートにする（2.4百万米ドル）

c. ビジターセンター：旧市役所をビジターセンター、工芸センター、レストランを含む建物に改修する（0.35百万米ドル）

d. カラク城展望台－適切な設備と標識を備えた２つの展望台を設置する（0.45百万米ドル）

e. 観光サービスの管理者・従業員の研修（0.3百万米ドル）

実施５ヵ年計画

Karak Tourism Development	96	97	98	99	2000	US$ million
a. Castle						2.4
b. Tourist Street						2.4
c. Visitor Centre						0.35
d. Observation Points						0.45
e. Training			Overseas	Domestic		0.3
Cost in US$ million	0.3	2.1	3.4	0.1		5.9

B/D　D/D　Implementation

8．計画の評価

8－1　経済分析

ここに提示した６つの観光開発プロジェクトの評価手法として、プロジェクト個々の収支バランスを見る財務分析評価は適しておらず、ジョルダン国経済全体への開発効果を評価する経済分析が適している。本分析では当該プロジェクト実施による観光客宿泊日数の増加分（延長分）と宿泊代金、入場料金等を含む宿泊観光客一人当たりの平均支出費用（１００米ドル／人／日）の積を便益額として算出した。個々のプロジェクトに関する経済分析評価は下記のとおりで、概ね高い評価を示している。

プロジェクト名称		経済内部収益率（EIRR）
（1）アンマン・ダウンタウン観光ゾーン	:	20.2 %
（2）国立博物館	:	53.3 %
（3）サルト歴史地区修景プロジェクト	:	17.1 %
（4）死海展望台コンプレックス	:	22.8 %
（5）死海・マダバ・パークウェイ	:	23.0 %
（6）カラク観光開発	:	23.5 %

8－2　公共投資所要量

6つの観光開発プロジェクトの2000年までの5ヵ年計画では、総投資額は75.7百万米ドルとなる。その中で最大の投資プロジェクトは、アンマン・ダウンタウン観光ゾーン整備プロジェクトで約21百万米ドルが計上されている。最も少ない投資プロジェクトは死海・マダバ・パークウェイプロジェクトで約7.5百米ドルである。本5ヵ年計画期間中では1999年に最大投資総額約31百万米ドルが計上されている。

年次別6プロジェクトの投資総額

（単位：百万米ドル）

	1996	1997	1998	1999	2000	1996~2000
投資総額	2.1	5.8	23.7	31.0	13.1	75.7

9．提言

六つのプロジェクト開発はすべてジョルダン経済の発展に寄与するのみならず、国際観光市場における観光地ジョルダンの地位強化に役立つものである。国立博物館プロジェクトは観光開発の分野を超えたナショナルプロジェクトとして推進するのが望ましい。

アンマンとその周辺で展開される6つのプロジェクトは、各サイトに十分魅力的な観光プロダクト（観光関連施設や商品）が準備されればペトラの魅力と相まって、国際観光市場におけるジョルダンの競争力向上に大きく寄与する。

市場開発効果を最大にするためには、提案された6つのプロジェクトを同時・並行して実施することが不可欠である。大きな相乗効果が期待できるからである。

目　次

表一覧

図一覧

Abbreviations

ARA	:	Aqaba Region Authority
BOT	:	Build, Operate and Transfer
CERM	:	Cultural Environment Resources Management
CIDA	:	Canadian International Development Agency
DOA	:	Department of Antiquities
DOE	:	Department of Environment (of the MMRAE)
EIA	:	Environmental Impact Assessment
EIB	:	European Investment Bank
EMTA	:	Eastern Mediterranean Tourism Association
GAM	:	Greater Amman Municipality
GCC	:	Gulf Cooperation Council
GDP	:	Gross Domestic Product
GEC	:	General Environment Corporation
GOJ	:	Government of Jordan
GTZ	:	Gesellschaft für Technische Zusammenarbeit
HQ	:	Headquarters
IDB	:	Industrial Development Bank
IEE	:	Initial Environmental Examination
ILO	:	International Labor Organization
JATA	:	Japan Association of Travel Agents
JD	:	Jordan Dinar(s)
JETT	:	Jordan Express Tourist Transport
JIC	:	Jordan Investment Corporation
JICA	:	Japan International Cooperation Agency
JTB	:	Jordan Tourism Board
JTB	:	Japan Travel Bureau
JTI	:	Jordan Tourism Investment
JVA	:	Jordan Valley Authority
MEMR	:	Ministry of Energy & Mineral Resources
MENA	:	Middle East and North Africa
MICE	:	Meeting, Incentive, Convention and Event
MIGA	:	Maltilateral Investment Guarantee Agency
MIS/TDN	:	Management Information System/Tourism Data Network
MMRAE	:	Ministry of Municipal, Rural Affairs and Environment
MOA	:	Ministry of Agriculture

MOE	:	Ministry of Education
MOHE	:	Ministry of Higher Education
MOIT	:	Ministry of Industry and Trade
MOL	:	Ministry of Labor
MOP	:	Ministry of Planning
MOT	:	Ministry of Transport
MOTA	:	Ministry of Tourism and Antiquities
MPWH	:	Ministry of Public Works & Housing
MWIWA	:	Ministry of Water, Irrigation & Water Authority
NGO	:	Non Governmental Organization
NIC	:	National Information Center
OECF	:	Overseas Economic Cooperation Fund of Japan
QAIA	:	Queen Alia International Airport
RJ	:	Royal Jordanian Airlines
RSCN	:	Royal Society for the Conservation of Nature
SDC	:	Salt Development Corporation
SDF	:	Saudi Development Fund
SIT	:	Special Interest Tourism
SSC	:	Social Security Corporation
TCC	:	Telecommunications Corporation
TDA	:	Egyptian Tourism Development Authority
TID	:	Tourism Investment Development (of the SSC)
TOR	:	Terms of Reference
UNESCO	:	United Nations Educational Scientific and Cultural Organization
USAID	:	United States Agency for International Development
VTC	:	Vocational Training Corporation
WB	:	World Bank
WTO	:	World Tourism Organization

CURRENCY EQUIVALENTS

(As of Jan. 1996)

Currency Unit	=	Jordan Dinar (JD)
	=	1,000 fils
JD1.0	=	US$1.41
US$1.0	=	JD0.708

第１部：全国観光開発戦略および施策方針

１．調査の経緯と目的

日本国政府は、ジョルダン国政府との二国間技術協力の一般協定に基づく要請によりジョルダン国観光開発計画調査を実施することを決定した。国際協力事業団（JICA）は、1994年7月26日、アンマン市にて先方実施機関である観光・遺跡省および計画省との間で調査の実施に係わる細目につき合意書を取り交わした。

国際協力事業団は本計画調査を実施するため、日本工営株式会社、株式会社パデコおよび株式会社地域計画連合から構成される調査団を指名した。調査期間は1994年12月からの約14ヵ月間である。本報告書の調査結果は二部に分別されている。第一部（フェイズI）は全国観光開発戦略と施策基本方針を取りまとめたものであり、第二部（フェイズII）は優先観光開発プロジェクトを選定しそれらにつき多面的な検討を行ったものである。

本技術協力・調査の目的は、国際協力事業団と観光・遺跡省との合意によれば次のとおりである。

（１）目標年次を2010年としたジョルダン全国観光開発戦略を策定すること、および
（２）この観光開発戦略に沿って選定される優先観光開発整備ゾーンにつき、目標年次2000年とした観光開発計画を策定すること、である。

最終報告書は本編の日本語、英語の要約版、および下記の３分冊から構成されている。

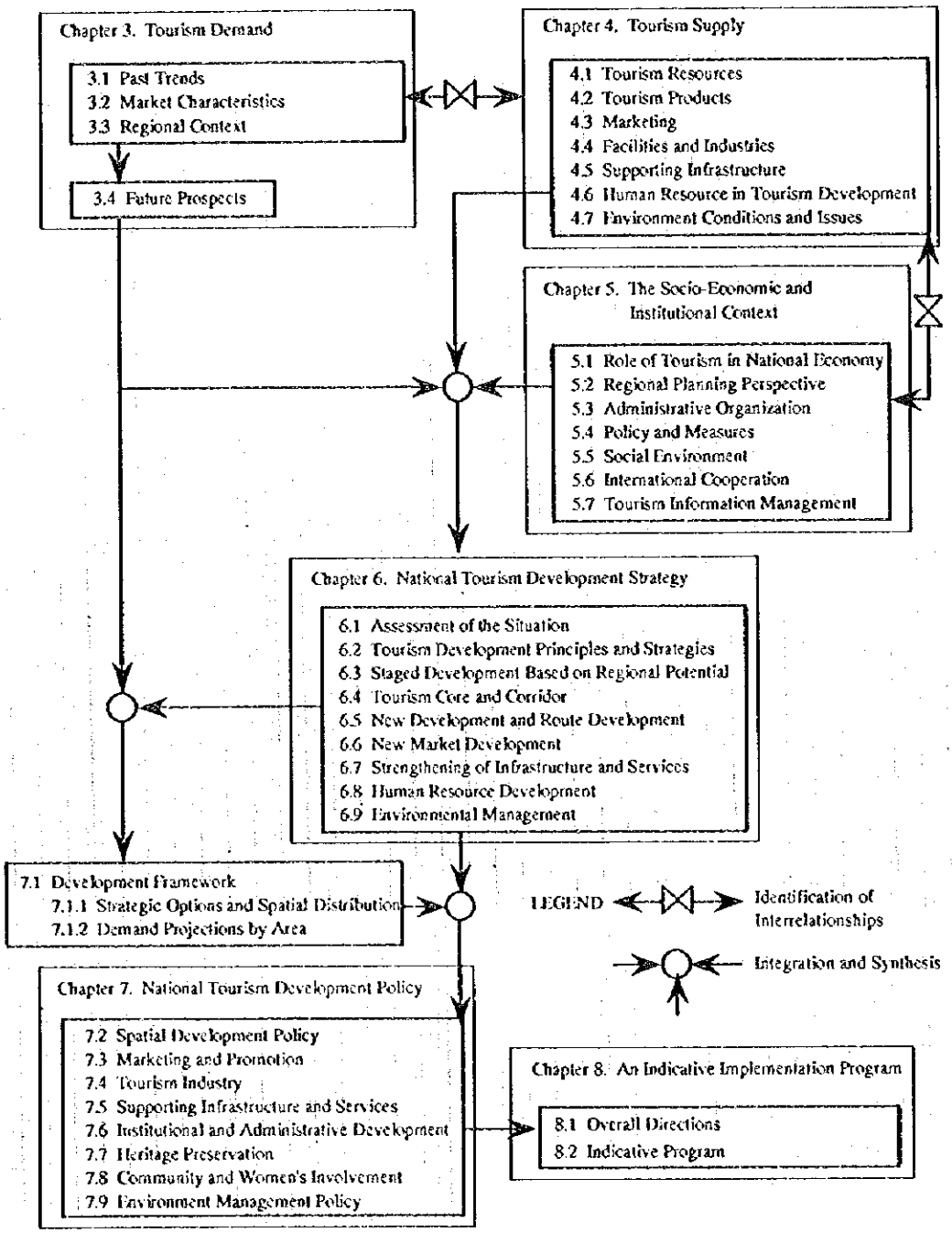
－日本語要約版
－英文要約版
第一部：全国観光開発戦略と施策方針
－第一分冊：観光開発計画
－第二分冊：分野別開発計画
第二部：優先整備ゾーンの観光開発計画（第三分冊）

２．調査方針

本調査における基本的な考え方は、ジョルダン国の観光とは現行の社会経済環境と行政制度の下、需要と供給の相互作用によって生まれる、とするものである。このような市場主導型アプローチは、今日の国際観光が激しい競争市場下にあることから一層その重要性を

増している。次図－１は本調査で実施された分析のプロセスを示したものである。

図－１　全国観光開発方針策定のプロセス



3．観光需要

需要分析

1994年時点でジョルダン国へは約3.2百万人の外国人旅行者が訪れている。しかし、その内約2.4百万人は近隣諸国から湾岸諸国への通過旅行者、出稼ぎ労働者、メッカ巡礼途上の通過客などである。その多くは特にホテル等の観光施設を利用するとは考えられず、残りの約84万人がジョルダン国を観光目的で訪れた旅行者と把握するのが妥当である。

ジョルダンの観光セクターには大きな変化が起きている。1991年以来非アラブ諸国の観光客が増加傾向にあり、1996年には初めて非アラブ諸国の観光客数が湾岸諸国のそれを上回るものと予想される（図－２）。

ヨーロッパ地域以外からの観光客も順調に増加しているが、観光客数で比較するとやはりヨーロッパ地域が非アラブ諸国観光客の大部分を占める。

湾岸諸国観光客の中でパッケージ旅行利用の割合は１％以下である。湾岸諸国観光客の多くはリピーターであり、その多くは長期滞在型アパートや別荘をジョルダン国内に持っている。

イスラエル人観光客は1994年の平和協議締結後にジョルダンを来訪し始めた。1994年には11月と12月の２ヵ月間で約1.1万人の観光客を数えたが、その54.3%はパッケージ旅行によるものであった。1995年の１年間でイスラエル人観光客は既に10万人を上回っており、そのうち91.6%はパッケージ旅行者となっている。またイスラエル人のパッケージ観光客数はジョルダンのパッケージ客数全体の約30%近くを占めている。

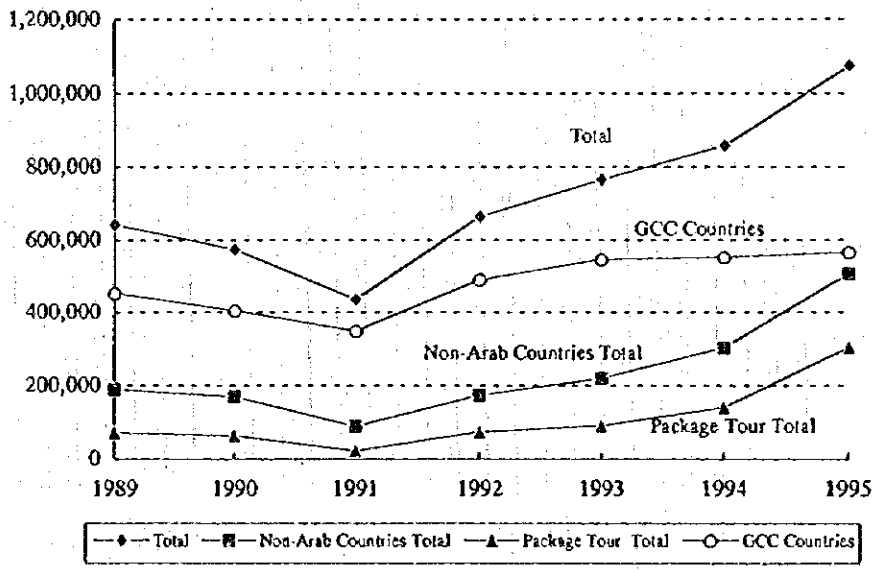
パッケージ旅行はジョルダン観光客増加の重要な部分を占めており、1994年では観光客全体の16.5%がパッケージ旅行者で、1995年にはその比率は28.3%まで増加した。観光市場でのパッケージ比率は今後更に高まるであろう。類似の特性を持つ地域での経験を踏まえると、パッケージ旅行はジョルダン観光市場でより重要な役割を担うことは明らかである（図－２）。

調査団が実施した観光客面接調査は、ジョルダンへの観光客の特徴を明らかにしている。50%近くの観光客が専門的業種か事務職に属する人々である。

面接調査対象の観光客のうち、約6割は過去4回以上の海外旅行経験者であるが、湾岸諸国を除く対象者のうち65%強はジョルダン訪問が初めてであった。特にヨーロッパ諸国からの観光客のうち86%は初めての訪問客であった。一方、アメリカ諸国および湾岸諸国からの訪問者はビジネス目的のリピーターが多い。現時点では、ジョルダンへの観光客のうち約80%がヨーロッパ諸国からの訪問客であるが、そのほとんどは豊富な外国旅行経験をもち、新しい観光体験を求める人々である。

観光客の5分の4（78%）近くがジョルダンの歴史と文化を観光目的にあげている。ジョルダンに関する情報では9%が'貧弱'と回答しており、約31%が'普通'と回答している。全体の96%の観光客がジョルダンのホスピタリティを'良い'と回答しているが、これらの回答者のうち魅力ある観光地としてペトラをあげた者が76%、ワディラムは57%、ジェラシュは64%でアカバは47%となっている。

図－2　ジョルダン国観光訪問者数、湾岸諸国およびパッケージ旅行別観光訪問者数



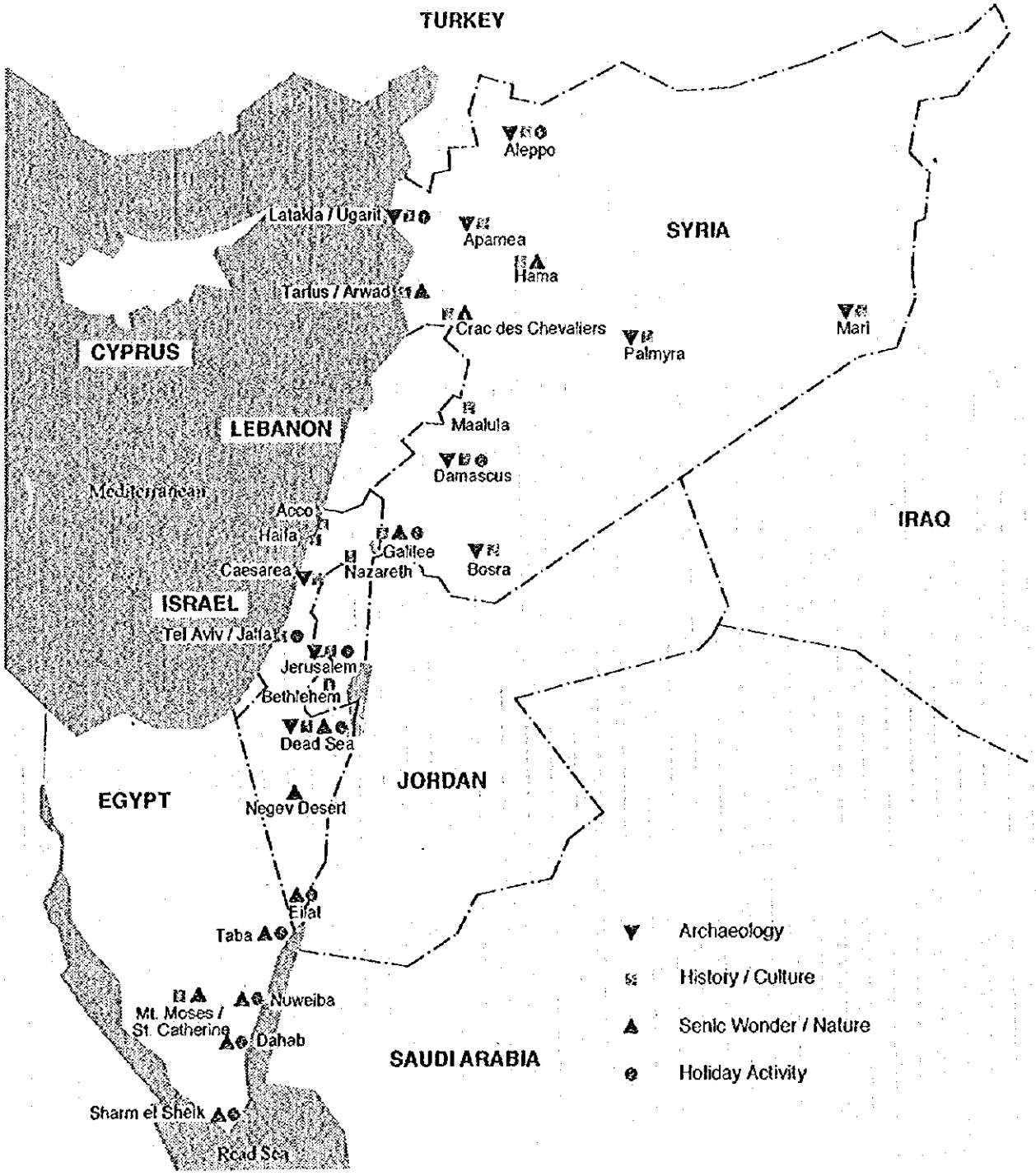
Source: MOTA

<u>近隣諸国との比較</u>

主要送客国のパッケージ旅行でジョルダンのみが単独で取り上げられることは稀で、近隣諸国（シリア、イスラエルなど）との組み合わせになるのが一般的である。ヨーロッパ一般客のパッケージでは、エジプト旅行のオプションとして追加されるケースもある。

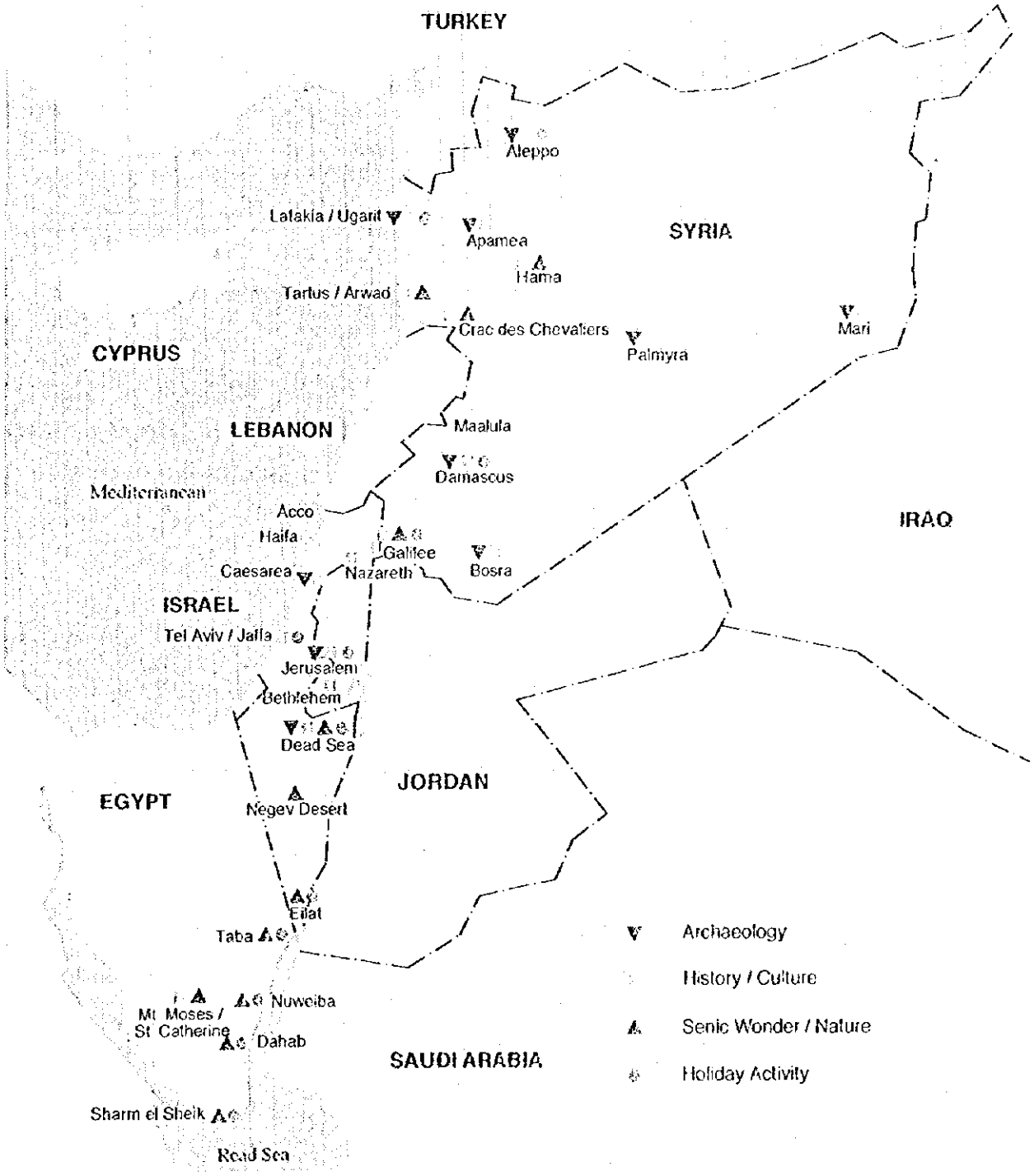
表－1はデスティネーション（観光目的地、国）としてジョルダンを競合する近隣諸国と比較したもの、図－3は近隣諸国の主要観光資源をプロットしたものである。

図－3　近隣諸国の観光資源



表－1はデスティネーション（観光目的地、国）としてジョルダンを競合する近隣諸国と比較したもの、図－3は近隣諸国の主要観光資源をプロットしたものである。

図－3　近隣諸国の観光資源



表－1　旅行目的地としてのジョルダンの位置付け

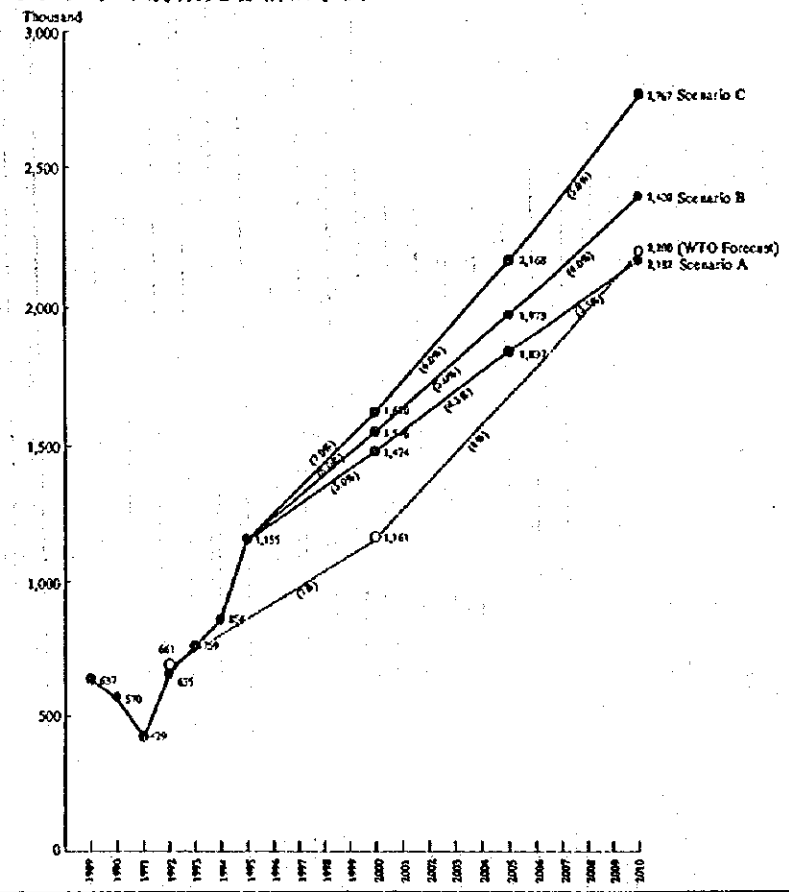
CRITERIA / COUNTRY	Destination Type	Recognition in World Market	Stand-alone Destination	Product Representation of Resources							
				Archaeology	History	Folklife	Culture	Natural Wonders	Beach Holiday	Health / Cure	Themed Attraction
Jordan	Culture tourism, plus small beach base	Limited for culture tourists	No	Strong	Weak	Weak	Weak	Weak	Weak	Weak	Weak
Israel	All-purpose Tourism	Established for general tourists	Yes	Fair	Strong	Fair	Fair	Fair	Strong	Strong	Strong
Egypt	All-purpose Tourism	Established for general tourists	Yes	Strong	Strong	Strong	Strong	Strong	Strong	Weak	Strong
Syria	Culture tourism, plus small beach base	Limited for culture tourists	No	Strong	Fair	Strong	Fair	Fair	Fair	Weak	Weak
Jordan after the implementation of the recommended measures	Culture plus beach and curative	Culture tourists/ General tourists	Yes / No	Strong	Fair	Fair	Fair	Fair	Fair	Fair	Fair

Source: JICA Study Team

予測

ジョルダンは多様な観光資源・素材に恵まれているが、それらを十分に利用・活用していない。この一年の観光客の急増（イスラエルを主とした）は異常値であり、観光セクターの持続的な成長のためには相当な努力が必要である。図－4は、成長の三つのシナリオを予測したものである。

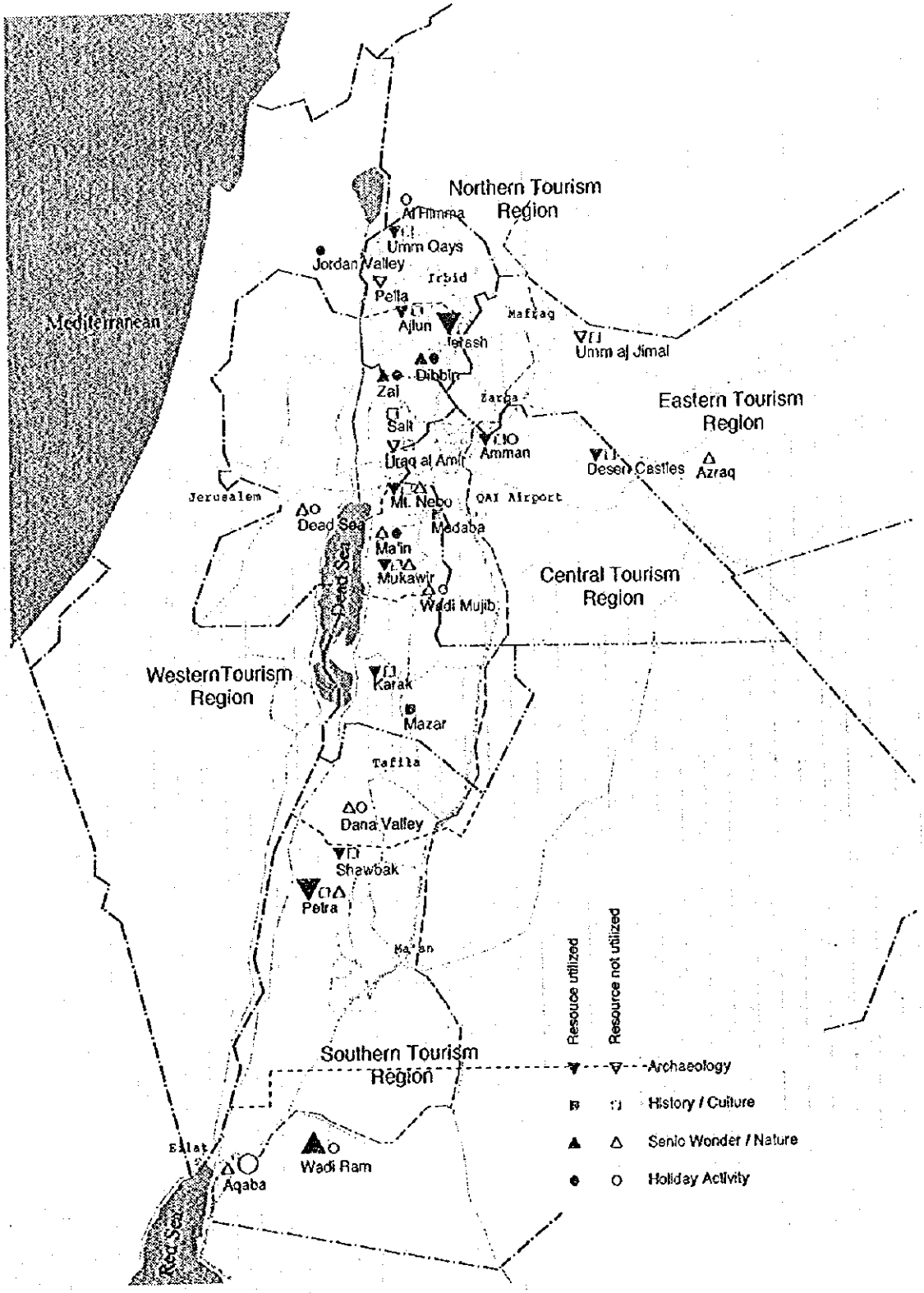
図－4　三つのシナリオ別観光客宿泊予測



4．供給サイド

観光資源

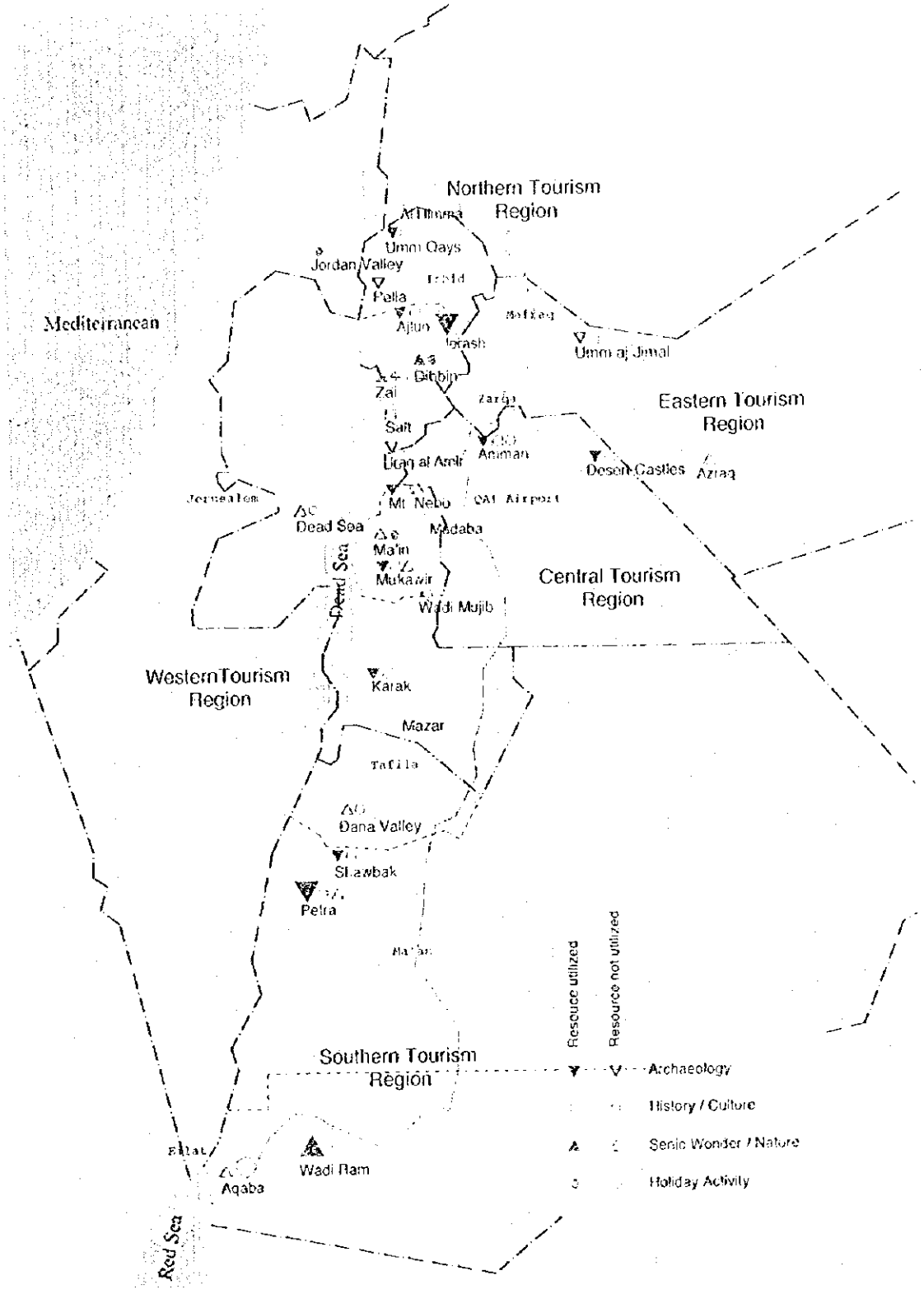
図－5　ジョルダンにおける主要な観光資源と地域



4．供給サイド

観光資源

図－5　ジョルダンにおける主要な観光資源と地域



観光プロダクト

競合の激しい今日の国際観光市場では、旧来の「旧跡・名所を中心とした観光地」に代わって「観光プロダクト」を整備・開発し、売り込むことが不可欠である。

ジョルダンの観光プロダクトには三つの問題点がある。

- 考古学遺跡のみに片寄った資源の保全・宣伝
- 展示・案内・解説手法（プレゼンテーション）の貧弱さ
- 現代的な観光サービス・施設の欠如

注）　観光プロダクト（Tourism Product）は近年、観光・旅行業界で多用されている新しい概念で、狭義には従来の観光地、名所・旧跡、景勝地といったTourist Attraction・観光対象に代えて、これらを包括したうえに、近年の観光行動の対象として大きな比重を占める人工的につくられた観光対象・活動（テーマパーク、文化・民族祭事、ソフトアドベンチュア・スポーツなど）を含む。

従来の観光地、名所・旧跡、景勝地であっても、現代の観光に不可欠な一連の基本的な観光情報・サービスの仕組み（Visitor Facilitationと呼ばれている諸施設・資料・サービスの組み合わせ）を備えているときには、Tourist Attractionの段階を卒業して観光プロダクトとなりうる。

広義の観光プロダクトは、国際観光市場における一つの観光目的地（Destination）を指す場合もあり、例えばエジプト・ピラミッド観光とジョルダン・ペトラ遺跡観光と観光プロダクトとしてどちらが魅力的で国際市場で競争力があるか、といった使い方をする。

表－2はジョルダンの主要観光地における観光サービス・施設の現況をまとめたものである。

表－2　主要観光地域におけるビジター施設の状況

SITE	HIGH-WAY SIGN	2ND-ARY SIGN	PARK-ING	TICKET BOOTH	VISITOR CENTER	PRINTED INFOR-MATION	MUSE-UM	ON-SITE SIGN	REST-HOUSE/ RESTAU-RANT	NOTES
Amman Citadel	No	No	Yes, but only for a few saloon cars	At Museum	No	No	Yes, but archae-ology only and crowded exhibits	Yes, but name only and very poorly done	No	Excellent panorama point, but no such facility
Jerash	Yes	No	Yes, but obstructs vista Arch to South Gate	Yes	Yes, but poorly managed	No	Yes, but archae-ology only	Yes, but name only and poor design	Yes	
Karak	Yes	No	Yes, but not paved	Yes	No	No	Yes, but archae-ology only, and irrel-evant to Castle	No	Yes	Visitors come to Karak for Crusader Castle, but no infor-mation on castle or history
Petra	Yes	No	Yes, but too small	Yes	Yes, but mostly empty	No	Yes, but archae-ology only	Yes, but name only and not infor-mative	Yes	Poor utilization of Visitor Center; the appearance of the visitor center is deceptive
Wadi Ram	Yes	No	Yes, but not paved	At Rest-house	No	No	No	Yes, but very few and name only	Yes	Reckless 4-wheel driving spoils visitor experience

Source: JICA Study Team

ペトラ

ペトラはジョルダン観光のハイライトで、1995年には前年比50%増の30万人の観光客を迎えている。ペトラが今後ともジョルダン観光の中心であることに変わりなく、国際市場におけるその知名度と人気を保持することが肝要である。

ペトラでもジョルダン観光プロダクト共通の問題点である貧弱なプレゼンテーション、現代的な観光サービス・施設の欠如が目立つ。また、特筆すべき地形・自然景観が観光資源としてまったく利用されていない。

世界各国はペトラの文化・歴史遺産としての重要性を認めて、各種の援助計画を実施している。ジョルダンに対する77百万米ドルにのぼる観光関連援助の大半はペトラに関わるものである。

1995年初めに創設されたペトラ地域協議会は、諸国の援助案件と調整をはかりながらユネスコが1994年にとりまとめたペトラ管理・運営計画を導入することになっている。

死海とアカバ

現在、死海地域にある観光施設は公営のレストハウス一軒、四つ星ホテル二軒のみである。

ジョルダン渓谷開発庁（JVA）は1994年に複数の大規模リゾート、休暇村、テーマパークなどを含む野心的な死海東岸北部（58kmX5km）の総合開発計画をまとめ、第一期開発に向けてインフラの整備・民間投資の誘致を開始している。

アカバ湾に面するエイラット（イスラエル）、タバ（エジプト）と比較して、ジョルダン側のアカバは最良のビーチとダイビングスポットに恵まれているが、観光施設の開発では最も遅れている。

アカバ開発庁（ARA）は和平の進展がもたらす観光客の増加に対応すべく地域開発マスタープランの見直しを行い大規模リゾート基地の創設を提案しているが、既存の港湾・産業施設と土地利用の面で利害の衝突が生じている。

その他の観光地

ワディ・ラムの自然観光資源の利用は十分なものとは言えないが、観光利用と脆弱なエコシステム、圏内のベドウィン集落との共存の課題は早急な解決を迫られている。

ジョルダン観光のゲートウエイとしてのアンマンは現代の観光振興に不可欠な「観光の中核都市」機能を欠き、そのため多大な観光収入を獲得する機会を逃している。

新しいプロダクトになりうる観光素材はその他にも多数ある（サルト、死海、ワディ・ラム、ワディムジブなど）

販売促進

既存の観光宣伝・情報資料は点数・内容ともにきわめて不十分なものである。とくに現地での情報資料・案内は皆無に近く、大幅な改善が必要である。

散発的、持続性のみられない観光宣伝活動に代えて、目標をしぼった販売促進活動を継続的に展開する必要がある。

観光施設と観光業

図－６で示されているように、1993年時点でホテル総客室数の約70％がアンマン市に集積している。1993年のホテル客室稼働率は50％以下であるが、近年の傾向は急速な回復基調となっている。観光・遺跡省による５つ星デラックスホテルのランク付けは特に国際的水準とはかけ離れており、見直し作業が行われている。

図－７は観光情報施設の配置状況を示したものである。その多くは設備・人材配置のいずれの点でも貧弱な状態である。

図－８は主要な展示施設（博物館等）を示したものである。貧弱な展示施設と市場努力の欠如により十分にその機能を果たしていない。

図－９は主要なリクリエーション施設を示したものである。これらの施設は意図的な努力に

より観光開発に取り入れることができる。

観光セクターに占める土産品・ショッピングの重要性が十分認識されていないため、商品の多様性、品揃え、店舗、販売手法などすべてが未成熟である。

ジョルダン高速バス会社（ジェット・バス：JETT BUS）による独占的観光バスサービスは、徐々に緩和されている。早急な解決が望まれるのは、近年増加している小規模グループの観光ツアーと従来からの大型観光バスサービス形態とのミスマッチである。空港関連施設・サービスの改善計画は進行中である。

支援基盤施設

道路網は一般的に充足しているが、死海－ワディ・アラバ・ハイウエイとキングス・ハイウエイ間の連絡道路の欠如が観光開発の阻害要因となっている。道路標識や道路サイドの施設は改善が必要である。

水供給は国土全体から見て重要な問題となっている。しかし、観光客増がもたらす需要増は、地域全体の需要量にそれほど大きなウエイトを占めるものではない。将来的には水道料金の問題や水の再利用が主たる政策課題となる。

廃棄物管理、汚水処理問題は地区ごとに解決が求められる。

人材資源開発

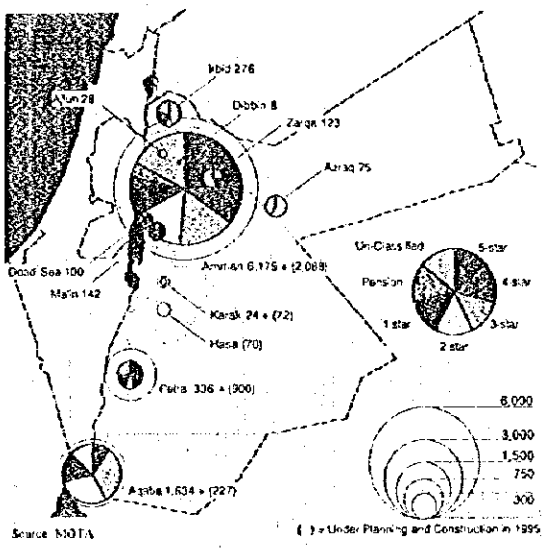
政府統計によると観光業界の全雇用数は1993年で約8,000人となっているが、この数値は1989年以降ほとんど変わらない。政府運営のホテル訓練学校があり、生徒数は435名である。二つの大学に観光学のコースがあり140人の学生が在籍している。

環境管理

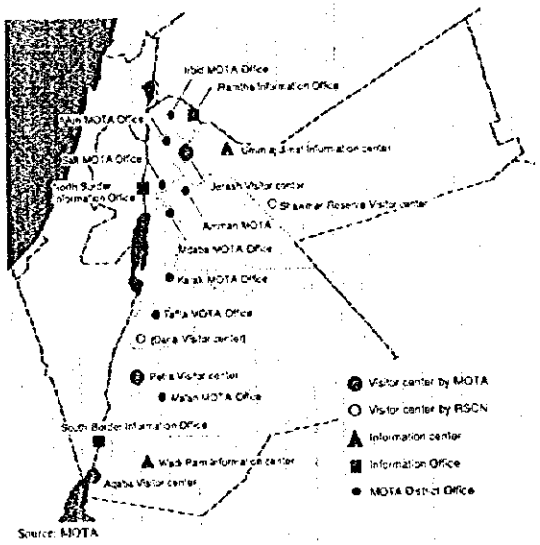
野性動植物・自然景観は貴重な観光資源である。現時点の自然保護に関する法律は、狩猟法と自然保護地区指定のみできわめて不十分である。新しく制定された環境法でも貴重な

国民的財産である自然を保護する必要性に言及していない。景観資源に対する保護規定もない。その結果、観光開発は環境に有害なものとの見方が一般的で、自然資源の長期的な保護に役立つものと見られていない。その代表例はワディ・ラム、ペトラ、死海地域である。ダナは地域コミュニティ開発と観光開発を効果的に組み合わせたモデルケースである。

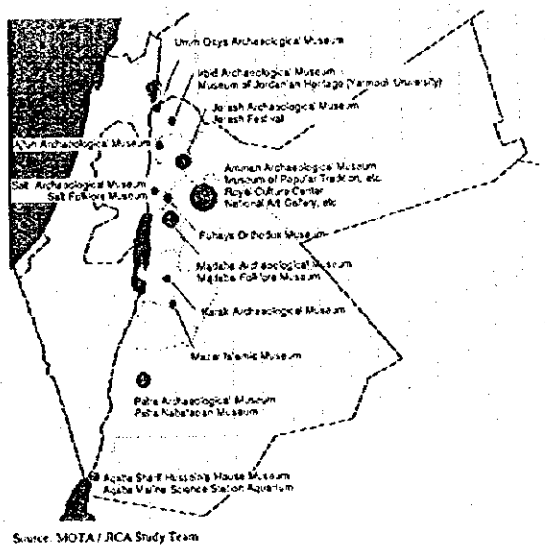
図－6　ホテル室数（1994）



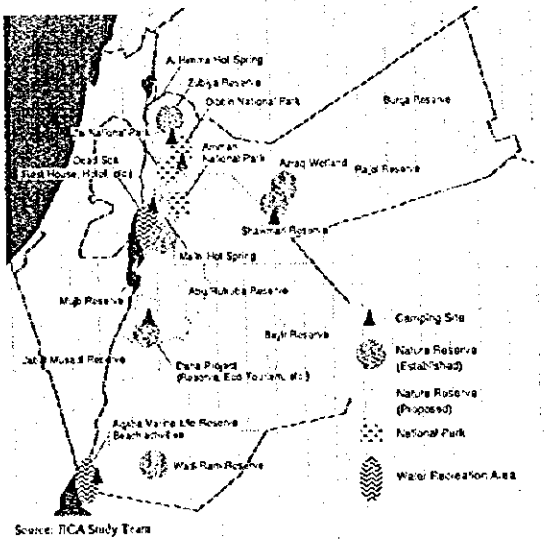
図－7　主たる観光案内施設



図－8　主要展示施設（博物館等）



図－9　主要リクリエーション施設



5．社会・経済および組織・制度

国家経済における観光セクターの役割

ジョルダン国の経済は慢性的な貿易赤字の大半を海外居住自国民の送金と外国の援助により相殺する構造となっている。そのためジョルダン国経済は極端に外的要因に左右されやすいものとなっている。

1994年に外国人旅行者ジョルダンにもたらした外貨の総額は、約6億63百万米ドルにのぼる。これは1994年の商品輸出総額の50%以上を占め、産業としての観光セクターはジョルダン国の主たる外貨獲得源となっている。

外国人旅行者による消費の波及効果を考慮すると、国際観光がジョルダン経済にもたらす効果は約4億90百万JDにのぼると想定される。これ額は1994年の建設業界や農業セクターを大幅に上回るものである。

減少傾向にあるが人口成長率は年平均2.8%を示し、これは13年間で50%の増加となる。若年層の伸び－労働人口成長率は年平均6.3%となる。1991年の失業率は17%で、もし有効な対策がとられないならば失業率の急騰は不可避である。

観光業はきわめて大きな労働吸収力をもつセクターである。観光業にてこ入れをし、一層発展させることはジョルダン経済にとり極めて重要である。

地域計画の展望

地域開発政策は現行の５ヵ年計画（1993-1997）には明確に提示されていない。しかしながら、重要な社会政策の一つとして「民族間、地域間における開発利益の公平な分配と開発による格差是正」があげられている。

行政組織

ジョルダンの観光開発に関わる主要な政府機関は観光・遺跡省である。しかし、観光開発行政には様々な省庁が携わっている。行政組織上の問題点として次の点が上げられる。

- 観光行政組織が細分化していること、
- 上級観光審議会が十分機能していないこと、
- 観光・遺跡省の政策立案機能が脆弱なこと、
- 観光・遺跡省の地方出先機関が貧弱なこと

観光政策と対策

現行の５ヵ年計画（1993-1997）では観光に関わる事項として:

- 観光開発に関わる国有地の民営化を促進すること、
- ホテル訓練学校の所管を観光・遺跡省に移管すること、
- ホテル、レストランおよびナイトクラブに関する分類と免許制度の見直しを行うこと、
- 観光協議会を設立すること、
- 観光に対する理解を推進するために：
  - ・観光キャンペーンを実施すること、
  - ・観光地図やパンフレットを作成すること、
  - ・国立博物館を建設すること、
  - ・新たな観光資源を開発すること。

政府の行動・対策が待たれる諸課題として:

- 観光開発マスタープランが未策定であること、
- 民間セクター参画を促す制度や施策が不十分・未熟であること、
- 政府機関・民間セクター間の協調関係が弱いこと、
- 観光開発をするにはあまりにも予算配分が少ないこと。

社会環境

本調査の一環として行った地域社会現況調査は、ジョルダンではこれまでに例をみない包括的ものである。調査結果を要約すれば:

－観光に対するジョルダン国民の文化的な反感がその開発の妨げになる、との懸念は根拠のないものであることが明らかになった。10人中9人は観光客の受け入れを歓迎している（図－１０）。

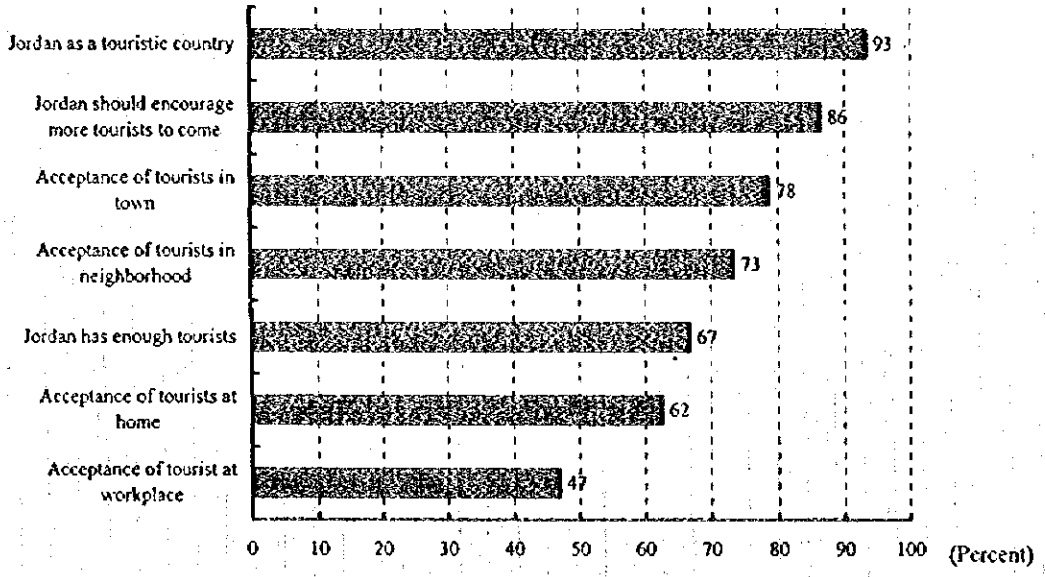
ー観光開発がもたらす利益については、回答者の大半が個人適には利益分配に与っていない、と答えている。

ー未開発地域住民の方が観光開発への期待が大きい。

ー若年層の方が高年齢層よりも観光開発に好意的である。また、就業者の方が失業者よりもより好意的である。

ー現在の若者が将来社会の中心となる時代には、ジョルダンは一層観光開発に開放的な社会となるであろう。

図ー１０ 観光開発への許容度



国際協力

中東和平の着実な進展を受けてジョルダン国観光開発に対する外国援助の気運は高まっている。1995年度半ばで、ほぼ85百万米ドルにのぼる開発プロジェクトが実施・計画中となっている。なお、プロジェクトの大半がペトラに集中している。

6．全国観光開発戦略

現状評価

観光業はジョルダン経済の「石油」であり、これは国民にも良く理解されている。十人中九人の人々が観光客受け入れを好意的に受けとめている。

近年の国際観光客急増、特にヨーロッパからのパッケージ旅行増加は、ジョルダンの観光受け入れ許容量を超過しないかとの危惧が政府内部に出ている。

最近の国際観光客急増は子細な分析を必要とする。イスラエル人観光客を除くと、1995年の外国人観光客数(予測)は1989年のそれとほとんど変わらず、また中東地域全体の伸び4％とも大差はない。テロ事件多発でエジプトを避けた観光客がジョルダンに流れていることも考慮して割り引く必要がある。

調査団の分析では、現在のジョルダン観光は限られた資源に依存するところが多く、観光目的地（デスティネーション）として世界市場で競争する水準には達していない。

回答者の93％近くは、ジョルダンの歴史と文化を訪問理由にあげている。ほぼすべての回答者がペトラを訪問しているが、単一資源への過度の集中は危険な兆候である。観光資源・対象の多様化が望まれる。

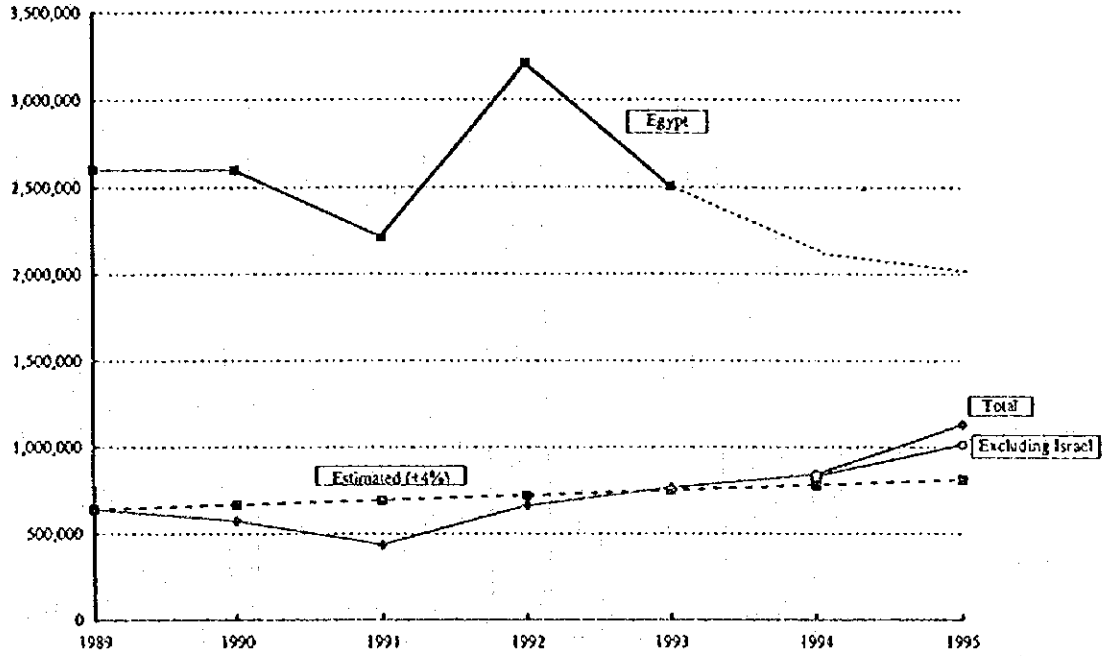
国際観光客は近代的な観光の中核(コア)をなす都市機能・サービスの欠如に不満を表している（図－１２）。

新しい観光プロダクト・観光ルートの開発により多様化を進め、新しい市場を開拓する必要がある。しかしながらジョルダン観光の特色は豊かな歴史遺産と文化にあり、調査結果はこの特色を中心にした開発方向を示唆している。

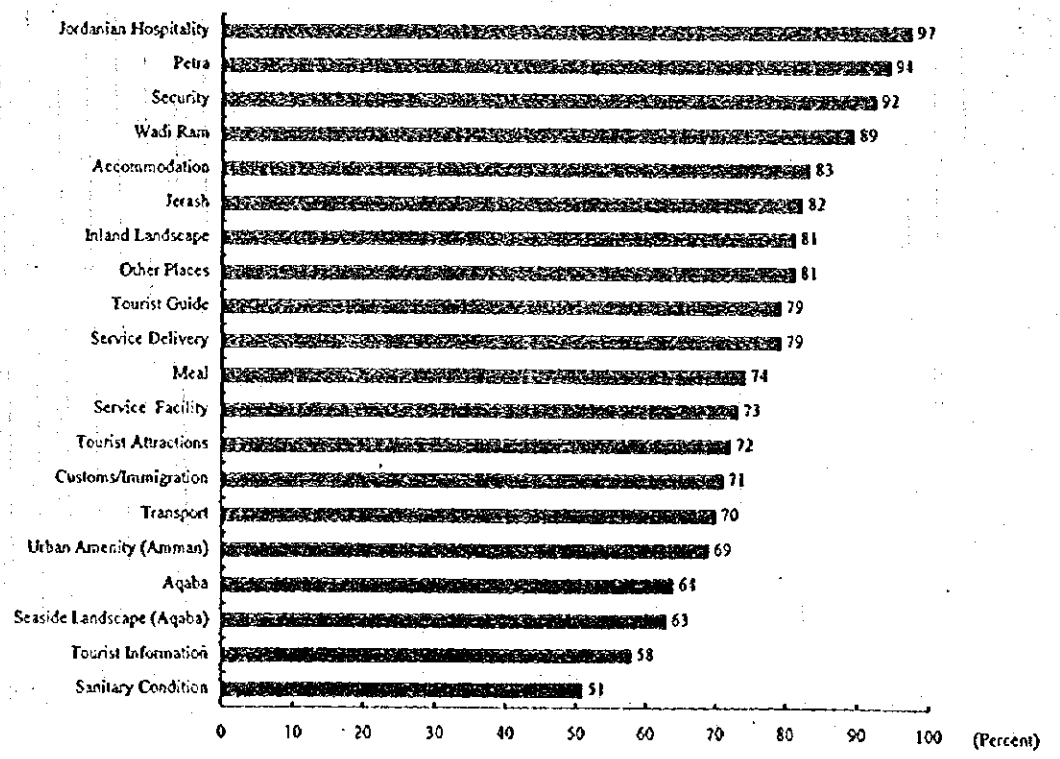
ジョルダンの観光セクターにとって基盤整備と人的資源開発は一層の努力を必要とする分野である。環境保全と資源保護の強化も望まれる。

観光開発に関係する公共セクターには観光市場ニーズに対応したリストラクチュアが求められている。

図－１１　ジョルダンおよびエジプト観光客数の推移



図－１２　観光客の評価



観光開発の原則と戦略

四つの原則

（１）観光セクター（ジョルダン経済の「石油」）の重要性の認識

（２）遺跡中心の観光から幅広い文化観光への転換

（３）観光資源の積極的な保全

（４）官民それぞれの役割の認識

七つの戦略

（１）地域ごとの開発可能性に応じた段階的な開発。図－１３は開発段階とパターンを示す。

（２）観光の「中核」（Tourism Core）と「回廊」（Tourism Corridor）の形成。図－１４は成熟段階出の「中核と回廊」を示す。

（３）新しいプロダクトとルートの開発。表－３は地域別の開発素材を示す。

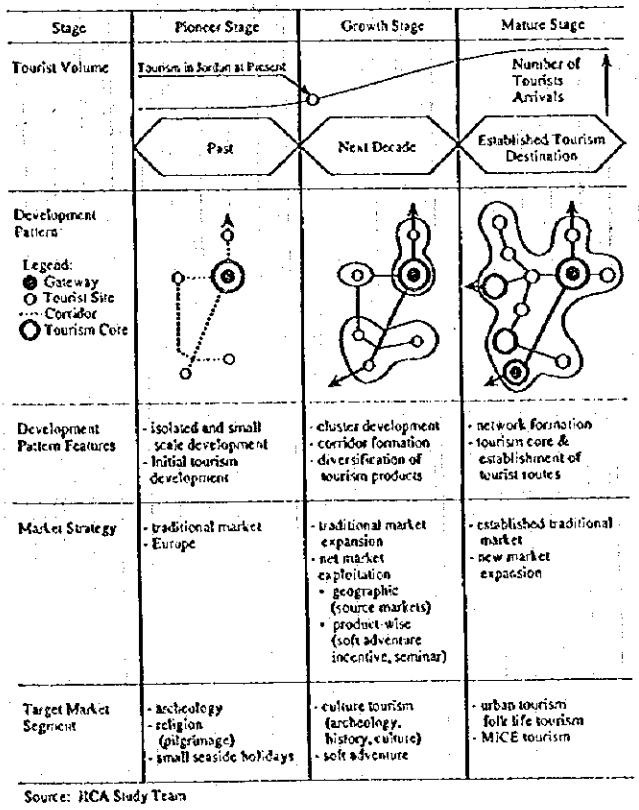
（４）新しい市場の開拓。図－１５は主要市場別アプローチを示す。

（５）インフラとサービスの整備・改善（交通、上下水道、環境衛生など）

（６）人材開発（公営訓練施設の充実、民営施設の新設）

（７）環境保全対策の強化

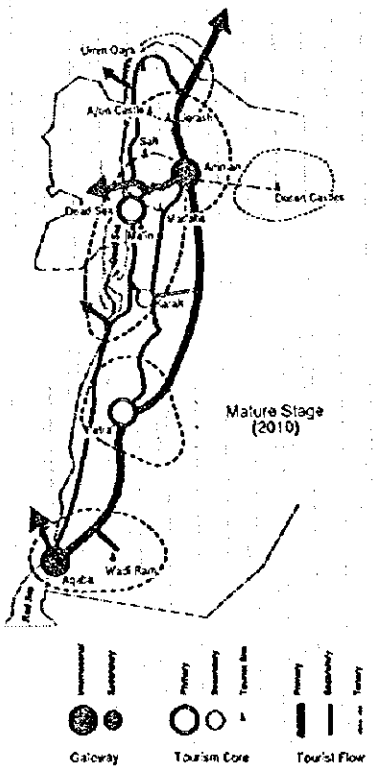
図－１３　開発段階とそのパターン



Stage	Pioneer Stage	Growth Stage	Mature Stage
Tourist Volume	Tourism in Jordan at Present		Number of Tourists Arrivals
	Past	Next Decade	Established Tourism Destination
Development Pattern Legend: ● Gateway ○ Tourist Site ···· Corridor ◯ Tourism Core			
Development Pattern Features	- isolated and small scale development - Initial tourism development	- cluster development - corridor formation - diversification of tourism products	- network formation - tourism core & establishment of tourist routes
Market Strategy	- traditional market - Europe	- traditional market expansion - net market exploitation • geographic (source markets) • product-wise (soft adventure incentive, seminar)	- established traditional market - new market expansion
Target Market Segment	- archeology - religion (pilgrimage) - small seaside holidays	- culture tourism (archeology, history, culture) - soft adventure	- urban tourism folk life tourism - MICE tourism

Source: JICA Study Team

図－１４　中核と回廊



表－3　地域別開発素材

Region / Time Frame	Central	North	East	West	South	Tourist Corridor	Across the Regions
Immediate	- Amman urban tourism base improvement Stage 1 (access beautification, Citadel tourist trail, one stop tourist complex) - Madaba route formation, with side attraction - National Museum part open	- Jarash, Umm Qays improvement	- Desert Castle route improvement	- Madaba tourist trail/culture park - Ma'in/Dead Sea circuit part open - "Historic Salt" completion - Ma'in /Dead Sea circuit completion - Ma'in /Dead Sea health/cure product introduced - Dead Sea Museum part open	- Aqaba beach front improvement - Karak and Wadi Rum improvement	- Kings Highway improvement (lookout/rest area, side attraction) - Desert Highway improvement (Aqaba approach)	- Visitor facilitation improvement at major sites
Medium	- Amman urban tourism base improvement Stage 2 (conference complex) - Hijaz Rail part operation (Amman/airport/ Qatrana) - National Museum completion	- Petra improvement		- Dead Sea Museum completion	- Dissi desert tourist core part open - Aqaba subconference center open - Jet Cat operation (Aqaba/Nuweiba)	- Great Rift Valley Highway part open (Jordan Valley/ Dead Sea Drives)	- Sophistication of visitor facilitation at major sites
Long	- Amman urban tourism base improvement Stage 3 - Hijaz Rail/ prospective Damas operation			- Dead Sea resort core completion	- Dissi soft adventure base completion - Aqaba resort core completion	- Great Rift Valley Highway completion	- Network of cores and sites completion

Source: JICA Study Team

図－15　主要市場別の観光素材・対象

Tourist Objects		Culture				Nature				Leisure		Urban		
Major Target Market		Archae-ology	History	Folk Life	Religion (Pilgrim-age)	Scenic Wonder	Bush-walk, Trek	Eco-watch, Study	Soft Adventure	Aqua Holiday	Curative Holiday	Urban Relaxa-tion	Incentive, Seminar	Urban Shopping
Europe	UK	■	■	■	◒	■	■	■	■	■	□	□	◒	□
	Germany	■	■	■	◒	■	■	■	■	□	■	□	□	□
	France	◒	◒	■	◒	◒	◒	◒	■	□	◒	□	□	□
	Italy	◒	◒	◒	◒	◒	◒	◒	■	◒	◒	□	■	◒
Americas		◒	◒	◒	◒	◒	◒	■	■	□	□	□	□	◒
Israel		■	■	◒	■	◒	◒	◒	◒	□	□	□	■	□
Up market Arab Regions		◒	□	□	□	□	□	□	□	■	■	■	◒	■
Japan/East Asia		■	■	■	□	■	□	◒	◒	□	□	□	□	■

LEGEND: ■ High Appeal　◒ Medium Appeal　□ Low Appeal

Source: JICA Study Team

7 全国観光開発政策

観光開発フレームワーク

調査団は１０の観光エリア各々について宿泊施設の需要予測を行った。表－４は２０１０年における中間ケースの予測値である。１９９５年から２０００年の５年間においては毎年約８５０室のホテル客室の建設が必要となる。

表－４　２０１０年における宿泊延日数、観光客数および客室必要数

	Tourist-nights Share by Tour. Area(%)	No. of Tourist-nights per year ('000)	Average Length of Stay(Night)	Number of Tourists per year ('000)	Average Bed Occupancy Rate(%)-yearly	Average Room Occupancy (Person)-yearly	No. of Room Required in 2010	Number of Bed Required (units)
Northern Tourism Region	2.0%	168	1.0	168	45.0%	1.7	602	1,023
Irbid Tourism Area	0.8%	67	1.0	67	45.0%	1.7	241	409
Ajlun- Jerash T. A.	1.2%	101	1.0	101	45.0%	1.7	361	614
Eastern Tourism Region	0.5%	42	1.0	42	30.0%	1.7	226	384
Mafraq- Zarqa Tour. A.	0.5%	42	1.0	42	30.0%	1.7	226	384
Central Tourism Region	51.5%	4,326	3.0	1,442	60.0%	1.7	11,620	19,753
Amman	51.5%	4,326	3.0	1,442	60.0%	1.7	11,620	19,753
Western Tourism Region	11.7%	983	1.5	533	55.0%	1.8	2,788	4,989
Balqa Tourism Area	1.0%	84	1.0	84	45.0%	1.7	301	511
Madaba-Dead Sea T.A.	9.0%	756	2.0	378	55.0%	1.8	2,092	3,766
Karak-Dead Sea T.A.	1.7%	143	2.0	71	55.0%	1.8	395	711
Southern Tourism Region	34.3%	2,881	2.0	1,453	55.0%	1.8	7,686	13,824
Tafila Tourism Area	0.3%	25	1.0	25	40.0%	1.7	102	173
Petra-Shawbak T. A.	16.5%	1,386	2.0	693	60.0%	1.8	3,516	6,329
Aqaba-Wadi Ram T.A.	17.5%	1,470	2.0	735	55.0%	1.8	4,068	7,323
	100.0%	8,400			56%	1.8	22,921	39,972

面的開発政策

今後の観光開発パターンとして、ジョルダンは北部、中部、南部という大観光ゾーンに分かれる。

首都アンマンは国際観光ゲートウエイとして、また、中部大観光ゾーンのコアとして開発される。死海はリゾート性を持つ一つのコアとして開発される。

南部大観光ゾーンのペトラ、ワディラムおよびアカバは「黄金の三角地帯」を形成する。アカバは第２の国際観光ゲートウエイ・観光コアとなり、ペトラはそれに付随するマイナーコアとなる。

北部大観光ゾーンはイルビットを中心とし、限定市場を対象としたゾーンとなる。

図－１６は２０１０年における面的開発パターンを示す。

図－１６　２０１０年以降の中・長期展望における面的開発パターン

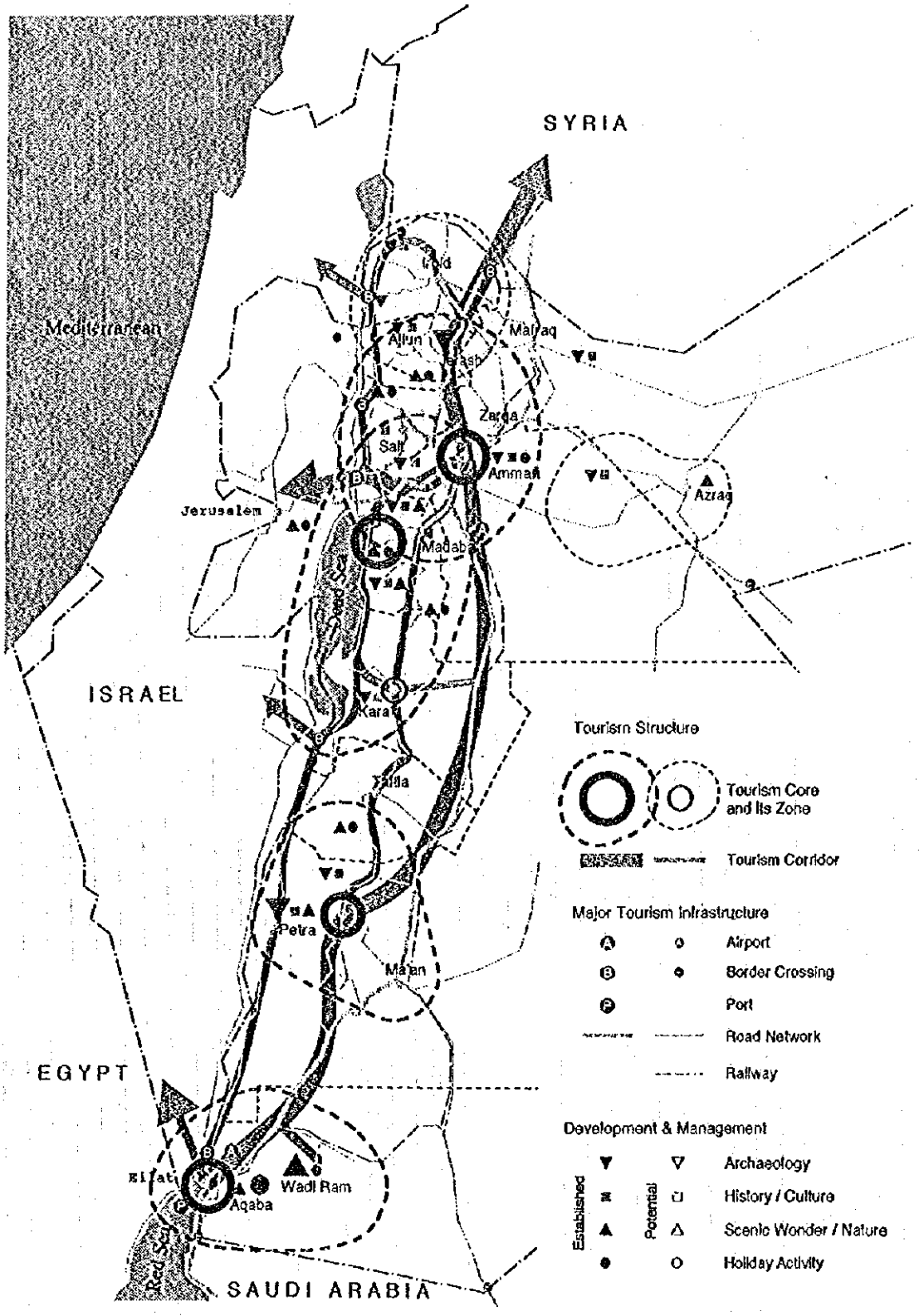
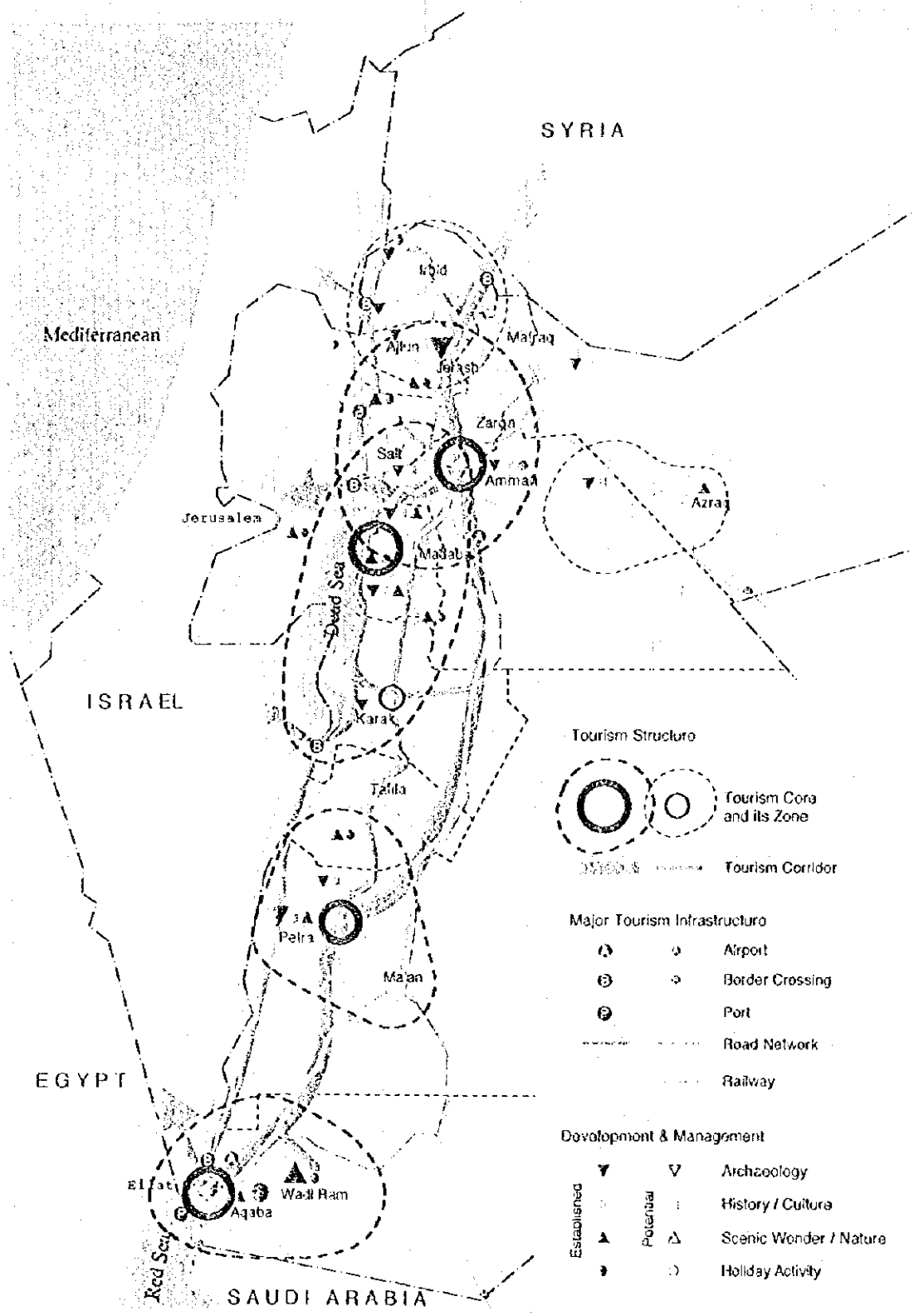


図-16　2010年以降の中・長期展望における面的開発パターン



プロダクト開発

プロダクト開発の目的は：

- 観光対象・プロダクトの開発と改善につとめ、変化する観光客の志向に応える。
- 観光素材・プロダクトの多様化をはかり、国際観光市場でのジョルダンの競争力を強める。

プロダクト開発案は表－6のとおり。

観光情報とサービス提供

観光情報とサービス提供改善の目的は：

- 新しい情報・資料の開発とその提供システムの改善に努め、来訪客の観光体験の満足度を高める。
- 質の面での観光サービスの向上をはかり、ジョルダン観光を国際市場の期待に応えるものとする。

この分野での具体的案は表－7のとおり。

販売促進

販売促進の目的は：

- 従来からの主要送客市場（ヨーロッパ）での販売促進を一層強化する。
- 市場・観光客の変化を察知して、新規市場（地域別・商品別）の開拓に努める。
- 新商品・提案を含む効果的な販売促進策を展開し、国際観光市場での競争力を維持する。

この分野での具体案は表－7のとおり。

観光振興・宣伝

観光振興・宣伝の目的は：

- 送客国の旅行業界と一般顧客に対するジョルダンの観光イメージを高める。
- 効果的な宣伝手法の組み合わせにより、ジョルダンへの潜在顧客を掘り起こす。

この分野での具体案は表－7のとおり。

観光関連産業（特に土産品と一般的買い物）

観光関連産業（特に土産品と一般的買い物）育成の目的は：

- 良質で魅力的な土産品・買い物商品の開発により、新たな観光収入増加の道をひらく。
- 効率的、魅力的な小売りサービス業を育成し、観光収入の増加に寄与する。

この分野での具体案は表－７のとおり。

支援インフラストラクチャー

ジョルダン観光のさらなる発展には、道路、鉄道、水上交通・航空等の交通システムの総合的な改善が必要である。長期的には南北の移動は３本の道路で分担すべきで、現在不足している東西移動路の建設が早急に必要である。歴史的なヒジャズ鉄道の修復は真剣な検討に価する。表－８には水上交通、航空等の交通関連プロジェクト案とその実施スケジュールをまとめてある。

上水の供給は、このまま何の対策の講じなければ2000年頃には需要量を下回るものと推定される。問題解決の鍵は水のリサイクル利用である。各産業セクターへの水の分配量変更も必要である。観光セクターの需要量が占める割合は大きくない。地方村落の観光開発では、EIA（環境影響評価）の一部として、水の需要・供給分析が必要である。下水・雨水排水についても同様の分析が必要である。

食品衛生と廃棄物処理の改善も急務である。衛生管理の強化、具体的な対策の実施が望まれる。

観光情報システムでは、現在観光・遺跡省が計画中のコンピュータ情報マネージメントシステムに加えて、一般観光客向けの情報システムの導入を提案している。

行政組織および制度

観光・遺跡省による全国観光開発マスタープランの策定と政府の承認が必要である。

観光・遺跡省を改組し(観光政策局の創設、観光開発局の強化)、地方事務所機能を強化する必要がある。観光・遺跡省に提案した組織改革図を図－１７に示す。

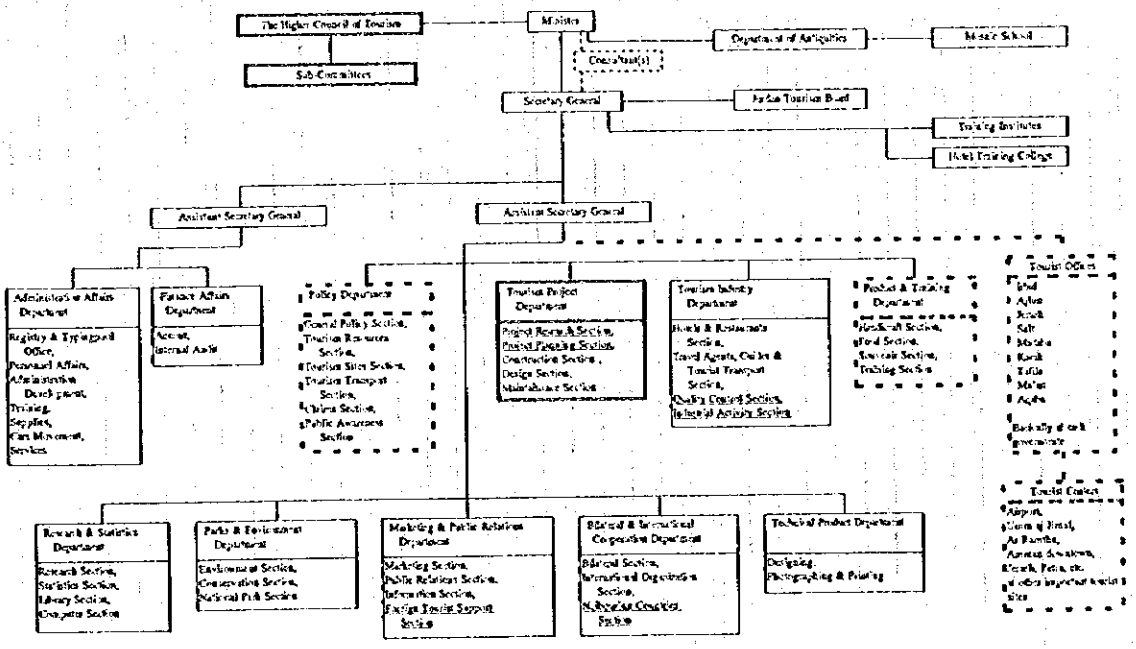
上級観光審議会を改組し、議長職は首相が務め、事務局は観光・遺跡省政策局の担当とする。

観光・遺跡省の予算として、観光セクターの重要性に見合う額を確保する必要がある。地方自治体が関わる観光プロジェクトについては補助金制度の導入が望まれる。

ホテル等級とレストランメニューの規制は廃止すべきである。

民間セクター観光開発に対するTwo-Stepローンの適用が望まれる。

図－１７　観光・遺跡省の組織改革案



notice:Thick dot boxs indicate proposed new departments, underline indicates proposed new sections in existing departments.
Thick boxs indicate the big change proposed to existing departments.

遺跡保全

遺跡局機能強化の一環として、遺跡局に一部遺跡の利用権を付与し、それにより生じる収入を遺跡保全に充当する。

国立公園の設置・管理は別の国家機関が行うことが望ましい。仮称「王立公園管理局」（Royal Park Service）の設立を提案する。

同様に博物館の研究・社会教育機能強化をめざして、「王立博物館付属研究所」（Royal Museum Institute）の設立を提案する。

アンマン、サルト、マダバ、カラク・イルビット等の古い市街地・集落の景観・建築物は新しい観光プロダクトの貴重な素材である。その保全を支援する制度・仕組みの構築が早急に望まれる。

観光資源、特に考古遺跡については地震対策を検討すべきである。

地域社会への配慮と女性参加

観光・遺跡省は観光開発が地域社会にもたらす利害について十分な広報・教育活動を行い、住民意識の向上を図る必要がある。

観光開発に対する地域住民の過度の期待と不安を除去し、観光業に積極的に参加させるためには、地域社会との対話が不可欠である。保守的な地域では女性の活用・雇用に十分な配慮・注意が必要である。

人的資源開発

ホテル訓練学校は観光産業のニーズを満たすものとする必要がある。

土産品の開発・振興は、地域での工芸指導・教育活動(視聴覚教材の活用)を柱として進める。

ジョルダン大学・ヤルムーク大学の考古学科は博物館運営・管理に役立つ人材の育成に努める。

環境保全

優先事項は以下のとおりである。

- 自然環境の保護・保全
- 既存の自然環境保護地区の管理強化
- 野性動植物の調査と社会調査
- 環境NGOへの技術・資金援助
- 環境教育

優先地域と緊急度は表－５に示す。

表－５　自然環境地域と緊急度

	Sensitive	Critical	Highly critical
Dead Sea with (South) Escarpment		x	
Wadi Araba	x		
Southern Highlands (with Dana, Petra)	x		
Hisma (with Wadi Ram)		x	
Burq / Badia	x		
Azraq oasis			x
Gulf of Aqaba		x	

表－6　主たる実施プログラム（観光プロダクト開発）（1／2）

	2000
Petra	- Tourist Facilitation • Improvement of visitor circulation route (USAID) • Improvement/beautification of the entrance (USAID) • Upgrading of tourism-related facilities (accommodation, amenities) (UNESCO) - Excavation/Conservation • Stone preservation (conservation of facade) (GTZ) • Restoration of mural paintings (cleaning, protection, conservation) (UNESCO) • Improvement of archaeological resources (restoration, preservation, excavation) (USAID) • Conservation of flora, vegetation and wildlife (RSCN) • Environmental management (USAID) - Management • Preparation of Study/Work Plan to protect the site (EU) • Establishment of park management organization (UNESCO) • Comprehensive service delivery and marketing approach (USAID) • Development of human resources and tourism education (UNESCO) • Establishment of hotel training school (MOTA) • Database compilation by ultra-violet photogrammetry (JICA) - Support Infrastructure • Flood control and drainage water management of Petra/ Wadi Musa basin (WB)
Amman	**• Strengthening of Amman gateway tourism base (Stage-I)** **• Upgrading of Amman urban tourism base** **+ Beautification of tourist access roads** **+ Creation of tourist trails** **+ Posting of tourist signs/information boards** **+ Creation of tourist information centre** **+ Creation of national museum (Stage 1)** • Construction of additional hotel rooms • Creation of an internatinal tourist complex (e.g., world trade center, convention hall) • Development of Amman International Tourism Center (World Trade Center, Convention Hall) • Improvement of archaeological sites (Citadel, Amphitheatre, Museums) (USAID) **• Upgrading of tourism products in Amman Zone** **• Creation/introduction of Historic Old Salt** **• Introduction of regular package tours to Jerash and Madaba** **• Creation of side attractions en route to Jerash, Madaba, Salt and Dead Sea** **• Introduction of:** **Amman-Madaba-Ma'In-Dead Sea tour circuit** **Amman-Salt-Jordan Valley-Dead Sea tour circuit** • Partial regular tourist operation of Hijaz Railways Amman-Airport-Qatrana

(つづく)

2010	Beyond 2010
• Development of handicraft (UNESCO)	• Ditto
• Conservation of Nabatean hydrological work (UNESCO)	
• Promotion and development of the sites (EU) • Establishment of park infrastructure and personnel (UNESCO)	• Ditto
• Development of Wadi Musa Community (UNESCO) • Upgrading of the hotel training school in Wadi Musa (MOTA)	• Ditto
• Improvement of Wadi Musa Town infrastructure	• Upgrading of infrastructure in Petra/Wadi Musa
- Ditto (Stage-2)	- Ditto (Stage-3)
• Construction of additional hotel rooms in Amman	
	- Ditto
- Improvement of the existing products and develop new ones • Development of Pella archaeological site	
• Development of Ma'in/Dead Sea curative products	
	• Regular tourist train operation of Hijaz Railway to Syrian border with prospective continuation to Damascus

表－6　主たる実施プログラム（観光プロダクト開発）（２／２）

	2000
Dead Sea	- Creation of Dead Sea Panoramic Complex • Panorama lookout • Visitor centre/museum • Resthouse/hotel spa - Creation of new product • Cable car linking Dead Sea-Panorama complex-Ma'in - Opening of new tourist road • Madaba-Ma'in-Dead Sea parkway - Beach beautification - Development of Lot Cave archaeological site - Dead Sea Coast infrastructure development (EIB) - Dead Sea Coast curative resort development - Dead Sea Coast hotels development
Aqaba	- Improvement Aqaba tourism base (Stage-1) • Beachfront beautification • Separation of tourist/industrial traffic • Upgrading of visitor facilitation - Development of 3000 hotel rooms - Formulation of Aqaba Region comprehensive plan (EU) - Formulation of environment management action Plan (WB)
Others	
a. Jerash	- Restoration of Nympheum (Italy) - Renewal of Jerash urban centre (Italy) - Archaeological excavation (NGO/Poland) - Restoration of Odeon (NGO/France)
b. Karak	- Upgrading of Karak products • Creation of visitor centre/Crusader museum • Introduction of tourist trails • Creation of tourist street/zone • Creation of panorama lookouts • Tourist signposting at the Castle (UK) • Architectural Survey (UK) • Consolidation of Castle rampart (USAID)
c. Madaba	- Provision of mosaic shelter (USAID) - Provision of bus terminal (USAID) - Conservation of mosaic (USAID) - Establishment of training program and strengthen the staff
d. Wadi Mujib	- Provision of basic rest facilities (toilets, kiosk, sunshade, signs and information) - Development of nature discovery trails

Note

WB : World Bank
EU : European Union
UNESCO : United Nations Educational Scientific and Cultural Organization
JICA : Japan International Cooperation Agency (Japan)
GTZ : Gesellschaft fuer Technische Zusammenarbeit (Germany)
USAID : United States Agency for International Development (USA)
RSCN : Royal Society for the Conservation of Nature (Jordan)
MOTA : Ministry of Tourism and Antiquities (Jordan)

（つづく）

2010	Beyond 2010
- Ditto	
	• Side attractions en route • Parking facilities and rest areas along the corridor
- Introduction of new tourist circuits	- Development of Great Rift Valley Corridor
- Dead Sea as one of the major tourist core - Completion of East Coast Development Project	
- Ditto (Stage-2) • Development of infrastructure in the south coast of Aqaba (EIB) • Introduction of new high speed regular boat service Aqaba - Nuweiba • Completion of Aqaba Marine Park (USAID)	- Ditto (Stage-3)
- Development of additional 3000 hotel rooms	- Completion of Dissi soft-adventure tourist base
- Development of 36 hole golf course	
- Ditto - Archaeological excavation (NGO)	
- Establishment of Karak as a regional tourism base	- Ditto
• Ditto	
- Ditto	

表－7　主たる実施プログラム（観光市場開発）

	2000
Information and Service Delivery	- Provision of gateway information • Production of information materials • Distribution at Tourist Information Centers • Sign posting • Staff training - Provision of on-site information • Production of information materials • Provision of information materials in Visitor Centers, Museums and Resthouses • Sign posting with interpretation • Staff training
Marketing	- Production of sales tools specially geared to travel trade and organizers - Production of motivational materials aimed at general public - Strengthening segmented approach towards the markets • Strengthening of approach towards the European and American markets • Cultivation of up-market, intra-regional Arab and Israeli markets • Expansion of the Asian market through programmed and segmented approaches - Cultivation of niche markets for activity holidays - Cultivation of seminar, conference and incentive markets by regional and European markets
Promotional	- Participation in travel trade shows and fairs in major source markets - Strengthening of repeat after-sales calls to follow up the initial contact - Keeping buyers posted up-dated information and products - Organizing of familiarization tours for buyers and media - Close liaison with RJ to heighten the profile and exposure of Jordan in major source markets - Exploitation of new avenues for promoting Jordan in major source markets
Tourism Industries	- Creation of attractive souvenirs - Establishment of production systems and marketing opportunities - Upgrading of quality and design of the souvenirs - Create sophisticated souvenir shops in major tourism cores

表－8　主たる実施プログラム（支援インフラ整備）

	2000
Supporting Infrastructure and Services	
Transport	
- Air Transport	- Beautification of Amman airport - Introduction of new wide body and long range aircraft - Increase in the number of flight to / from Amman - Improvement of tourist flights
- Road Transport	- **Completion of Dead Sea - Madaba Parkway** - **Development of tour circuit road network** - **Multi functional transport terminals** - Installation of road signs for tourists - Introduction of toll roads
- Railway	- Improvement of track and rail, Amman - Qatrana
Water Supply and Sewerage Hygiene	- Development of water recycle use system - Introduction of compact dedicated system
Solid Waste	- Establishment of waste collection and dumping system - Education of people to keep environment clean
Miscellaneous	- Development of computerized tourism information system (USAID)

（つづく）

2010	Beyond 2010
- Strengthening the provision of gateway information	- Ditto
- Strengthening the provision of on-site information	- Ditto
- Production of purpose-edited sales tools geared to travel trade and organizers	- Ditto
- Production of theme motivational materials aimed at general public	- Ditto
• Consolidation of Jordan's tourism position in European and American markets through business partnership of tourism	• Ditto
• Intensive approaches to selected new and emerging markets such as Australia, South and Central Asia and Eastern Europe	• Ditto
- Enhancement of products profile for niche markets with diversified products of culture arts, events, sports and meetings	- Ditto
- Development of the Urban and MICE market	- Ditto
- Organizing of joint sales mission to potential and emerging markets	- Ditto
- Organizing of purpose made/theme sales mission to SIT and niche markets in the established source market with attractive products and proposals	- Ditto
- Organizing of promotional seminar/workshop for buyers in major source markets	- Ditto
- Opening of own tourist promotion office in major source markets	- Ditto
- Upgrading of the souvenirs industry and products	- Ditto - Ditto - Ditto - Ditto

2010	Beyond 2010
- Expansion of Amman airport terminal building	
- Improvement of Aqaba Airport	- Development of Aqaba - Eilat Airport
- Development of more connecting roads between Dead Sea and Kings Highway	- Ditto
	- Upgrade of track between Amman-Syrian border
- Ditto	- Ditto
- Ditto	- Ditto
- Strengthening of the information network - Establishment of tourist information services	- Ditto

表－9　主たる実施プログラム（組織強化）

	2000
Institutional Strengthening	
Administration and Organization	- Formulation of authorized Tourism Development Master Plan - Reorganization of MOTA • Strengthening policy making and project implementation functions • Centralizing tourism development administration and strengthen the coordinating function • Strengthening direct tourist services - Reorganizing and activation of the Higher Council of Tourism • chairmanship and membership revision • secretariat to be created in MOTA • establishment of sub committees • increase the frequency of meeting • strengthen responsibilities - Financing tourism development and tourism promotion • allocation of budget to be increased • finance to local project to be made possible • giving priority to tourism related infrastructure development - Deregulation • hotel standards and restaurant control regulations to be liberalized - Establishment of financing systems for private sector projects • establishment of soft loan • increase of barrow portion
Human Resources	- Transfer of Hotel Training College to MOTA • Strengthening of teaching staff • Improvement of training program - Encouragement of private sector to participate in training - Establishment of appropriate training systems
Heritage Preservation	- Strengthening of DOA - Designation of unexcavated national heritage area - Start of active preservation of heritage
Community Considerations and Women's Involvement	- Promotion of local cultural elements such as music, dance, art and festivals - Cultivation of community awareness channels by country-wide campaigns - Cultivation of community awareness • Dialog between MOTA and local communities and other civil organizations
Environmental Management	- Adoption of MOTA's EIA guidelines by GEC, EIA of tourism projects - Participation and membership of MOTA in the High Council of the Environmental Protection - Designation of natural conservation areas. Wadi Rum is top priority. - Ecological rehabilitation of existing tourism sites - Environmental education - Integrated tourism development plan for existing site, environment with nature, culture and archeology

（つづく）

2010	Beyond 2010
- Enhancement of the Hotel Training College and training systems	- Establishment of training systems for hotel and tourism management
- Increase in the number of trainees	- Ditto
- Provision of attractive incentives for employers	- Ditto
- Establishment of National Park system - Establishment of National Institute for Heritage Conservation	
- Ditto	- Ditto
- Cultivation of community awareness channels by regional level campaigns	- Ditto
- Cultivation of community awareness by regional level campaigns about women involvement to tourism	- Ditto
- Identification of nature tourism potential	
- Wildlife surveys - Upgrading of current wildlife and nature conservation/ protection system - Guidelines for development of ecotourism	- Nature tourism development

第２部　優先整備ゾーンの開発計画

１．はじめに

第２部は９５年７月始めから１２月までの調査団の第２段階の調査の結果を述べる。

２．優先観光開発エリア

優先エリアの選定は次の評価基準により行った。評価基準は現在の潜在力より、むしろ将来の開発可能性を重視した。本調査の第１段階で採択した段階的開発戦略に基づき、近い将来の開発可能性に重点をおいて総合評価を行った。図－１８はその結果を示す。

- 外貨獲得能力
- 観光市場拡大と多様化への潜在力
- 公共投資の必要度(どれほど少なくてすむか)
- 地域雇用促進効果
- 環境上の許容量
- 国際資本に対する魅力度
- 民間セクターに対する魅力度
- ゲートウェイからの距離

図－１８　観光地区の評価

Tourism Region		Northern		Eastern	Central	Western			Southern		
Tourism Area / Evaluation Criteria		Irbid	Ajlun-Jerash	Zarqa-Mafraq	Amman	Balqa	Madaba-Dead Sea	Karak-Dead Sea	Tafila	Petra-Shawbak	Aqaba-Wadi Ram
	(Weight)										
Foreign Exchanger Earning	(10)	Medium	High	Low	High	Medium	Medium	Medium	Low	High	High
Market Expansion and Diversification Potential	(5)	Medium	Medium	Low	High	High	High	High	Medium	High	High
Least Public Investment	(3)	Low	Medium	Low	Low	Medium	Medium	Medium	Low	Medium	Low
Local employment Generation	(4)	Medium	Medium	Low	High	High	Medium	High	Low	High	Medium
Environmental Capacity	(6)	Medium	Medium	Low	High	Medium	Medium	Medium	Medium	Medium	Low
Attractiveness to International Funding Agencies	(3)	Low	High	Medium	High	High	High	High	Medium	High	High
Attractiveness to the Private Sector	(5)	Medium	Medium	Low	High	Medium	High	Medium	Low	High	High
Distance from the Gateway	(3)	Medium	High	Low	High	High	High	High	Low	Medium	Low
Overall Score		105	149	45	183	147	149	143	67	171	139
Priority Rating		7	2	9	1	4	2	5	8	N/A	6

LEGEND: High 5　Medium 3　Low 1

ペトラを除いてはジョルダン観光を語ることはできない。国際社会もその重要性をよく認識しており、観光に関わる外国援助の大半はペトラ向けのものである。ユネスコが作成したペトラ管理・運営計画が実施されれば、バランスのとれたペトラの保全・開発の進行が確実になる。従って本調査の第２段階の検討ではペトラは除外した。

ジェラシュは、ジョルダン・日本両政府間の当初の取り決めにより除外されている。

第１段階の結果を踏まえ、第２段階の調査で選択された優先観光開発エリアは下記のとおりである。

中央地域：アンマン

西部地域：マダバ／死海

バルカ

カラク／死海

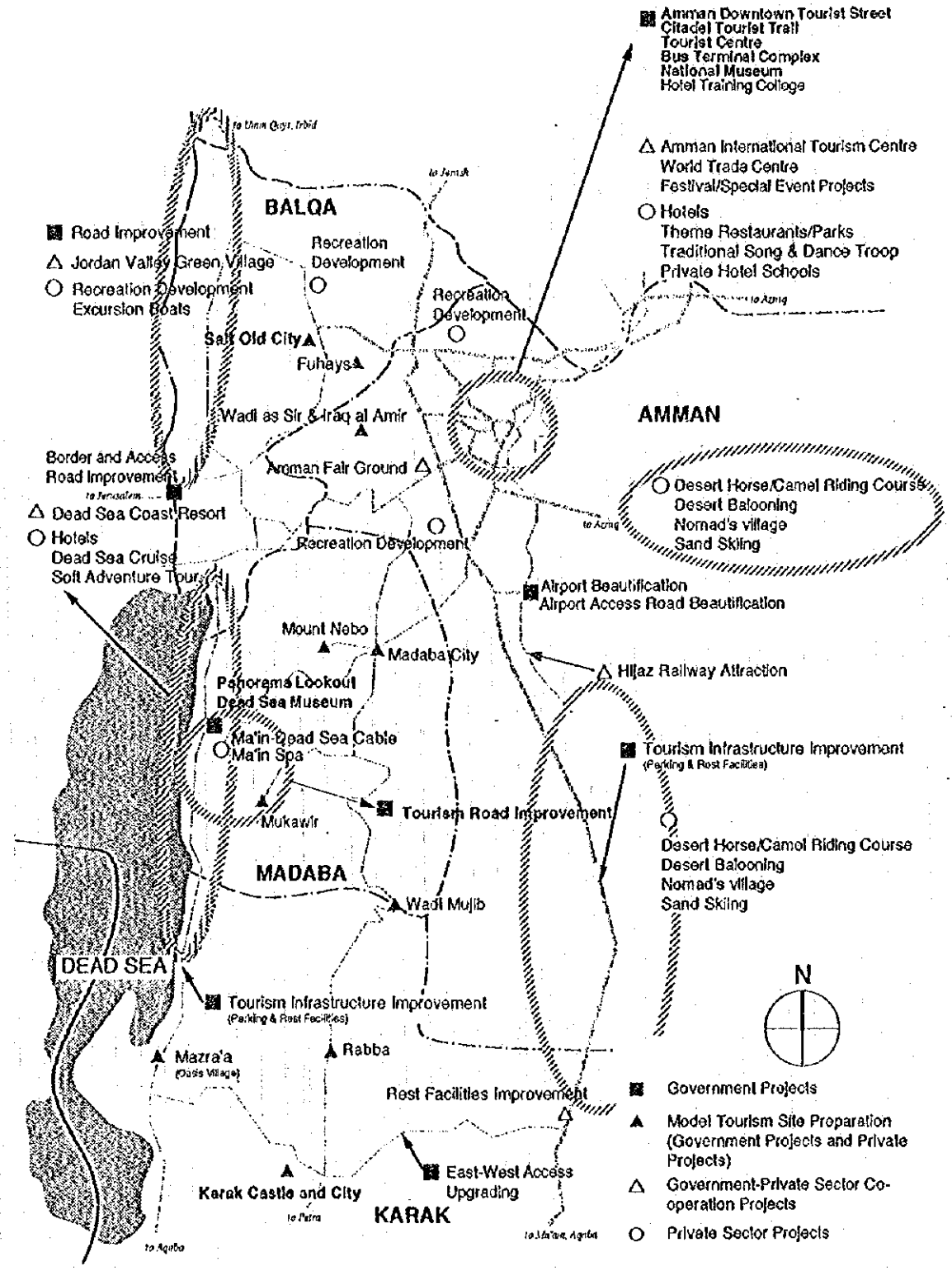
図－１８は、ジョルダンに強力な国際観光の核を早急に形成するためには、高得点地区への集中的な努力が緊急課題であることを示すものである。低得点地区が長期的にも優先順位が低いことを意味するものではない。

３．可能なプロジェクトの選定

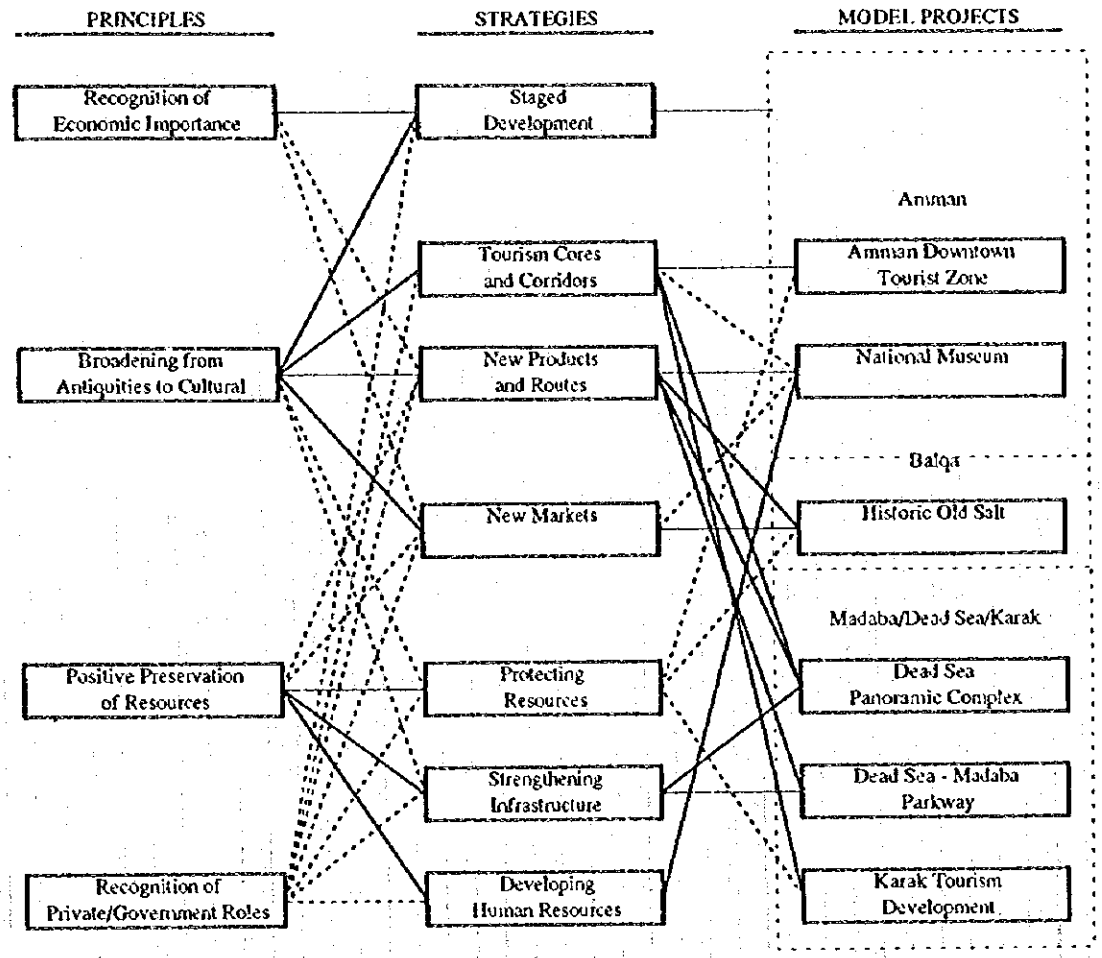
政府、官民協力、民間セクターによって実施可能な、相当数（計３２）のプロジェクト／プロジェクト群が選定された。図－１９はその地域的配置を示す。

その中から、６つのプロジェクトを詳細な調査対象として選定した。これらは今後の事業化調査の基礎となるのみならず、ジョルダン観光開発のモデルプロジェクトとなるものである。図－２０は観光開発の開発方針、開発戦略、選定されたモデルプロジェクト間の関係を示している。外国からの援助対象としての適性も選定にあたって考慮に含めた。

図－１９　選定地における実施可能なプロジェクト



図－２０　観光開発の原則、戦略およびモデルプロジェクト



4．モデルプロジェクト

<u>アンマン・ダウンタウン観光ゾーン</u>

コンセプト：アンマンを国際的に通用するジョルダンの観光の核にする。
ＵＳＡＩＤはプロジェクト地域内の「シタデル」整備を実施している。本プロジェクトは進行中の整備作業を補完するものである。

構成：a. ツーリスト・ストリートの形成（2.3百万米ドル）
b. 観光遊歩道の導入（2.5百万米ドル）
c. 旧市庁舎の修復活用(歴史資料館・ツーリストセンターとして)（2.3百万米ドル）
d. バスターミナル・コンプレックスの建設（12.7百万米ドル）
e. ツーリスト・インフォメーションセンターの設置（0.7百万米ドル）
f. 観光サービス管理者・従業員の研修（0.3百万米ドル）
註：（　）内の数字は指標としてのプロジェクトコスト

基盤整備：交通：駐車場の改善計画と交通工学上の対策が必要
給水：観光客の影響は小さい
下水：下水配管の改善が必要
排水：排水システムの改善が必要
ごみ処理：ごみコンテナの隠蔽、魅力的なごみ箱設置等の改善

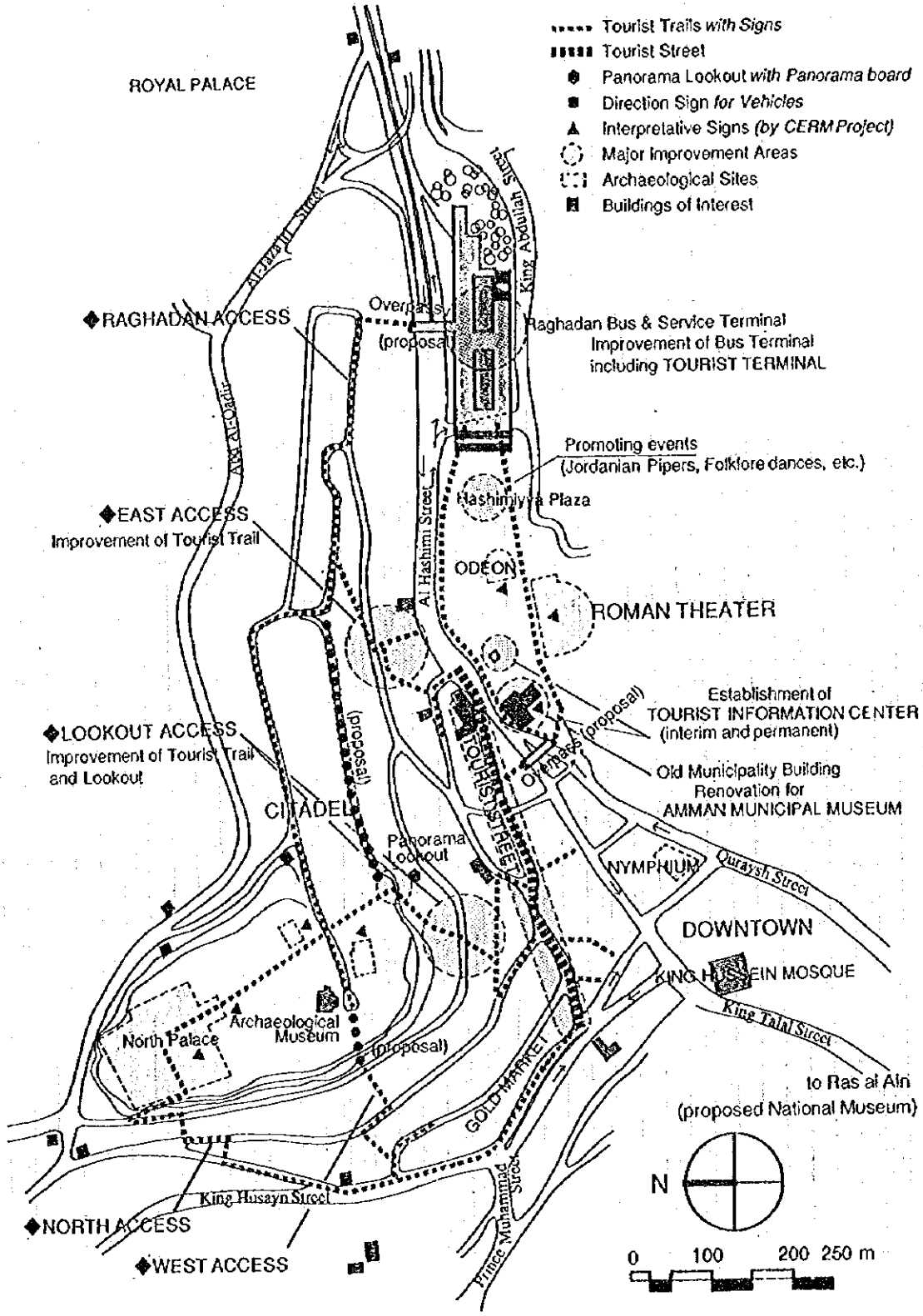
環境管理：初期環境評価（ＩＥＥ）を行った。環境アセスメント（ＥＩＡ）の必要はない。

組織・制度：文化財の保全ーこのプロジェクトは保全に貢献する。
コミュニティに対する影響ー一部低所得者層の移転が必要となるかもしれない。
女性の福祉に特に影響はない。

事業実施：プロジェクトの大半は、アンマン市役所、観光省が連携して実施すべきである。

計画評価：経済分析の結果、当該プロジェクトの経済内部収益率（EIRR）は20.2%と高い評価を示している。

図－２１　アンマン・ダウンタウン観光ゾーンプロジェクトの構成



国立博物館

コンセプト：アンマン中心部に計画中のシビックセンター地区に国際水準の国立博物館を設立する。
国立博物館委員会は建物の設計前に、展示の内容、種類、方法など詳細を決定する必要がある

構成：a. 博物館の建造（躯体および内部設備：13.5百万米ドル）
－来訪者サービス部門：エントランス・ホール、クローク、ミュージアム・ショップ、カフェテリア、ラウンジ、トイレ等
－展示部門常設展示、企画展示、屋外展示スペース等
－展示支援部門：荷解きスペース、収蔵庫、スタジオ、工作室、他
－研究部門：図書室、セミナールーム、等
－管理部門：事務室、守衛室、等
－その他：廊下、機械室、等
b. 学芸員および他の博物館管理人材の育成（1.0百万米ドル）

必要面積は延べ6,670平方メートル、概算コストは14.5百万米ドル。

インフラ整備：交通：周辺の交通計画が必要
給水、下水、排水：特に問題はないが、接続システムの改善が望ましい
ごみ処理：小規模な焼却炉の設置が望ましい

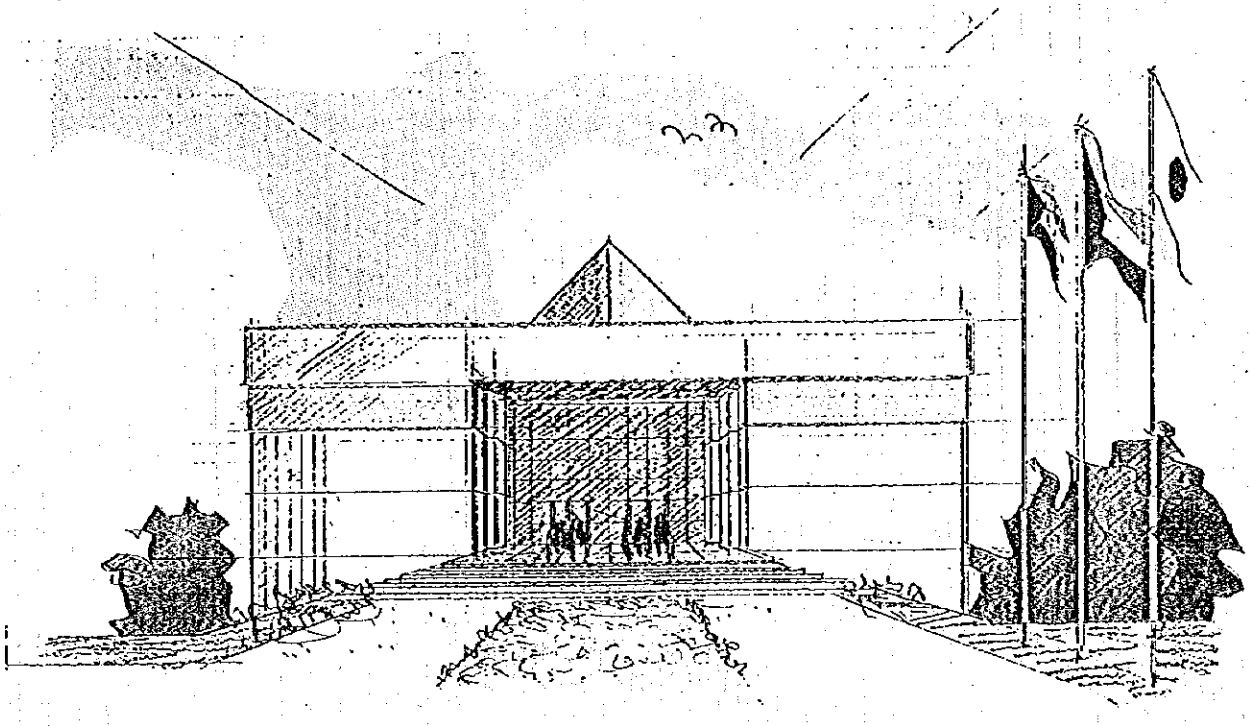
環境管理：初期環境評価（ＩＥＥ）実施した。景観への影響、洪水が課題で、ＥＩＡが必要である。

組織・制度：文化財の保全－このプロジェクトは保全を推進する
地域社会に対する影響－このプロジェクトは周辺エリアの高級地化を加速する。

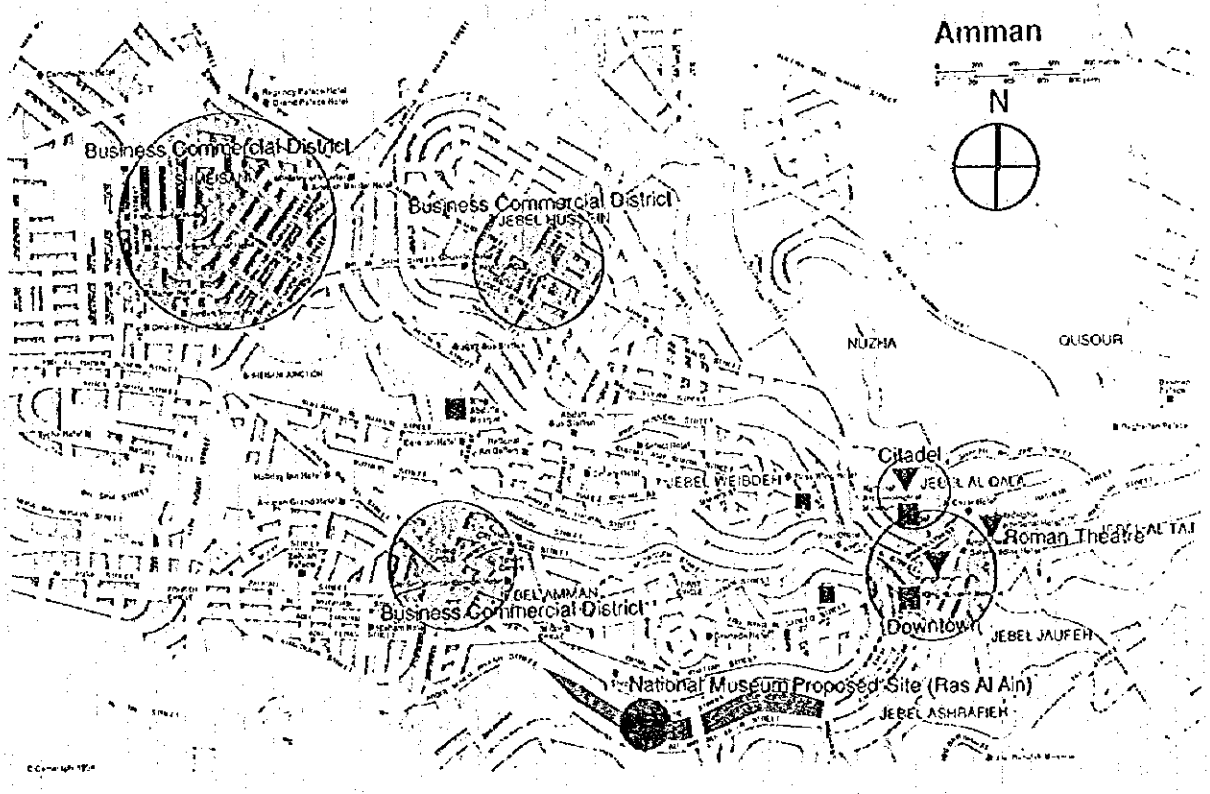
事業実施：　ジョルダン国立博物館委員会が実施機関を指名する。

計画評価：経済分析の結果、当該プロジェクトの経済内部収益率（EIRR）は53.3%と高い評価を示している。

図－２２　国立博物館イメージ図



図－２３　国立博物館位置図



サルト歴史景観地区プロジェクト

コンセプト：ジョルダンで初めての、歴史・文化・民俗を特色とした新しい観光プロダクトを創り出す。
イタリア援助の工芸センターも本プロジェクト・コンセプトに統合される。

構成：a. ビジターセンター－由緒ある歴史的な建物アブジャベルを、ビジターセンター、歴史文化資料館、工芸ショップ、既存店舗を含むコンプレックスとして修復する（2.3百万米ドル）。
b. 公共空間の修景、モデル遊歩道、観光標識、展望台、ベンチの整備（5.0百万米ドル）。
c. 観光サービスの管理者・従業員の研修（0.3百万米ドル）。

インフラ整備：交通：新たな投資は不要、観光客駐車スペースの確保が必要。
給水、下水、排水：特に問題はない
ごみ処理：アンマン・ダウンタウンと同様な改善が望ましい

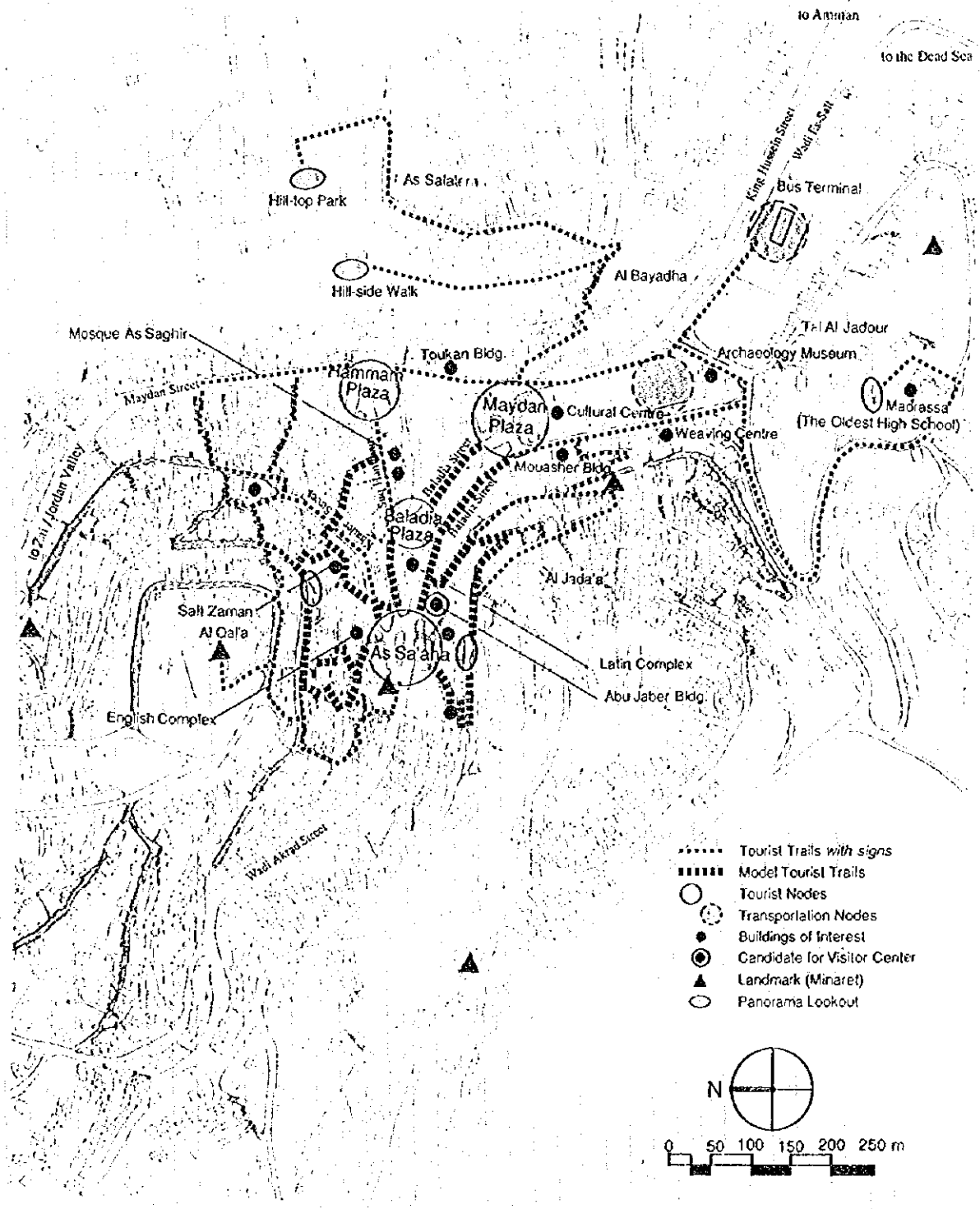
環境管理：初期環境評価（ＩＥＥ）を実施した。環境アセスメント（ＥＩＡ）の必要なし。

組織・制度：文化財の保全－市の建物・景観に関する条例の強化が必要。サルト開発組合（ＳＤＣ）は保全・修復活動で市役所に協力できる。
地域社会に対する影響－本プロジェクトは地域社会に大きく貢献する。

業務実施：観光省の監督下、市役所とサルト開発組合がプロジェクトを実施する。

計画評価：経済分析の結果、当該プロジェクトの経済内部収益率（EIRR）は17.1%と高い評価を示している。

図-２４　サルト歴史景観地区プロジェクトの構成図



死海展望台コンプレックス

コンセプト：死海の観光地としての魅力を高めるために、これまで死海に欠けていた観光対象・施設・アメニティを整備する。本プロジェクトはジョルダン渓谷開発庁の死海東海岸開発マスタープランを補完するものである。

構成：a. 死海展望台・レストハウス－展望スパを備えたレストハウス（9.6百万米ドル）
b. 死海資料館－最新の疑似体験劇場を備えた死海の展示（2.1百万米ドル）
c. ケーブルカー－死海海岸ザラとマイン温泉を結ぶケーブルカー（6百万米ドル）
d. 観光サービスの管理者・従業員の研修（N/A）

インフラ整備：交通：死海・マダバパークウェイとの接続
給水、下水、排水：ザルカ・マイン川より取水。自己完結型排水処理システムの設置。
ごみ処理：自己完結型独立ごみ処理システムの設置。

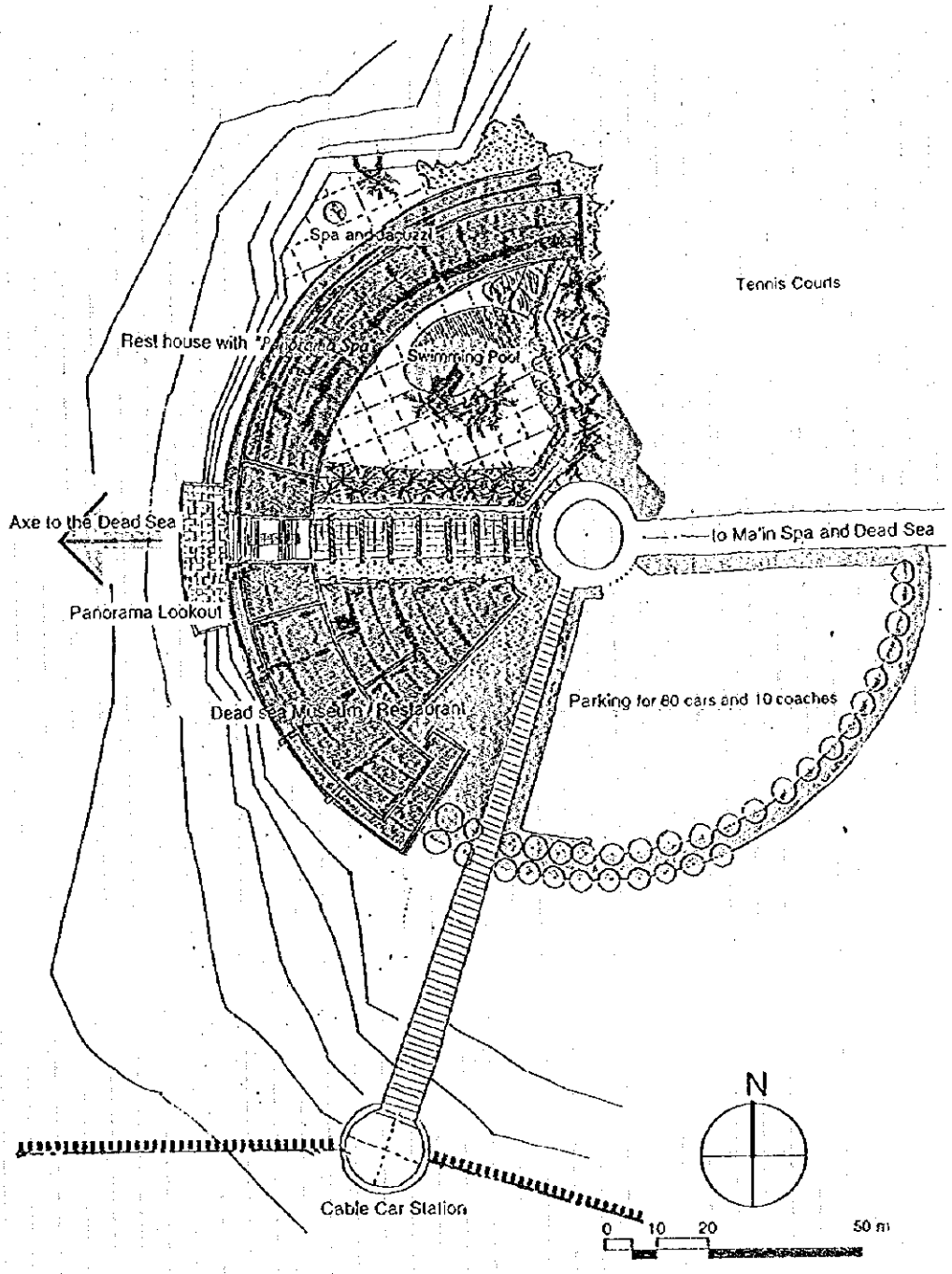
環境管理：初期環境評価（ＩＥＥ）を実施した。景観資源の影響、地滑りの危険、ザルカ・マイン川の自然保護への影響などが課題。ケーブルカーの適切な配置も必要。ＥＩＡが必要。

組織・制度：文化財保全－死海資料館はこの目的に大いに貢献する。
地域社会への影響－季節的なベドゥイン集落を除きほとんど影響なし。

事業実施：観光省がこのプロジェクトの決定と管理に第一の責任を持つ。全て政府による実施以外にも、ＢＯＴを含めた様々な形での官民協力が考えられる。

計画評価：経済分析の結果、当該プロジェクトの経済内部収益率（EIRR）は22.8%と高い評価を示している。

図－２５　死海展望台コンプレックスの配置図



死海・マダバ・パークウェイ

コンセプト：死海海岸ハイウエイとキングスハイウェイを結ぶ連絡道路を開き、新しい観光周遊ルート・観光体験を創り出す。ジョルダン渓谷開発庁による死海東海岸開発マスタープランは数本の東西連絡道路を提案している。本プロジェクトはそのひとつを実現するものである。

構成：３つのルートが可能である。

（１）死海ーマイン

（２）マインームカウィール

（３）ムカウィールー死海

第一ルートが最も緊急に必要である。４つの路線案を検討し、最も適切なものを採用した。

仕様　長さ：13.0キロメートル

最大勾配：10.0%

舗装：車道3.6×2メートル、路肩　3.0×2メートル

概算コスト：7.5百万米ドル

インフラ整備：ごみ処理ーごみ収集・処理チームの創設が必要。

環境管理：初期環境評価（ＩＥＥ）を実施した。環境に大きな影響はない。

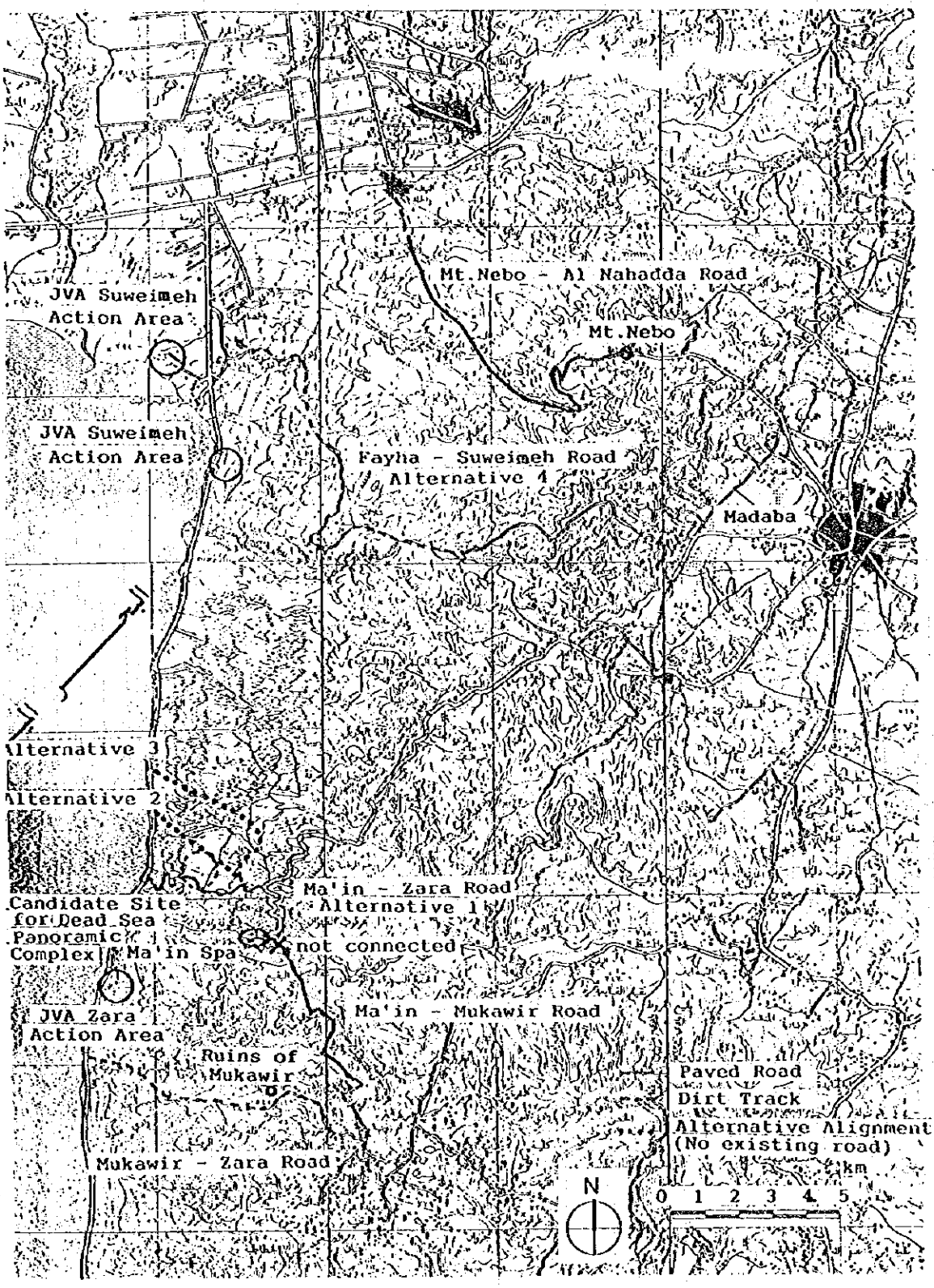
組織・制度：文化財保全ー案内・説明標識の設置が必要。

地域社会への影響ーエリアには人が居住していない。

事業実施：公共事業省がジョルダン渓谷開発庁と協調して行う。

計画評価：経済分析の結果、当該プロジェクトの経済内部収益率（EIRR）は23.0%と高い評価を示している。

図－２６　死海・マダバ・パークウェイ位置図



カラク観光開発

コンセプト：カラクの観光地としての魅力を増すために、これまで欠けていた観光施設・アメニティを設ける。英国は城内・市内の観光標識設置プロジェクトを実施予定。ＵＳＡＩＤ・ＣＥＲＭプロジェクトは城と町の外周城壁の修復を実施予定。ともに本プロジェクトを補完するものである。

構成：
a. カラク城の展示改善ー見学者順路の整備と十字軍に関する展示（2.4百万米ドル）
b. ツーリスト・ストリートーカラク城からアル・マリク通り、サラディン像、市庁舎に至る通りを石畳舗装のツーリスト・ストリートにする。（2.4百万米ドル）
c. ビジターセンターー旧市役所をビジターセンター、工芸センター、レストランを含む建物に改修する。（0.35百万米ドル）
d. カラク城展望台ー適切な設備・標識を備えた２つの展望台を設置する（0.45百万米ドル）。
e. 観光サービスの管理者と従業員の研修（0.3百万米ドル）

インフラ整備：交通：観光客用駐車場（観光バス、乗用車）を設置する。
給水、排水、下水：重大な障害はない。
ごみ処理：さらに装備と人材が必要

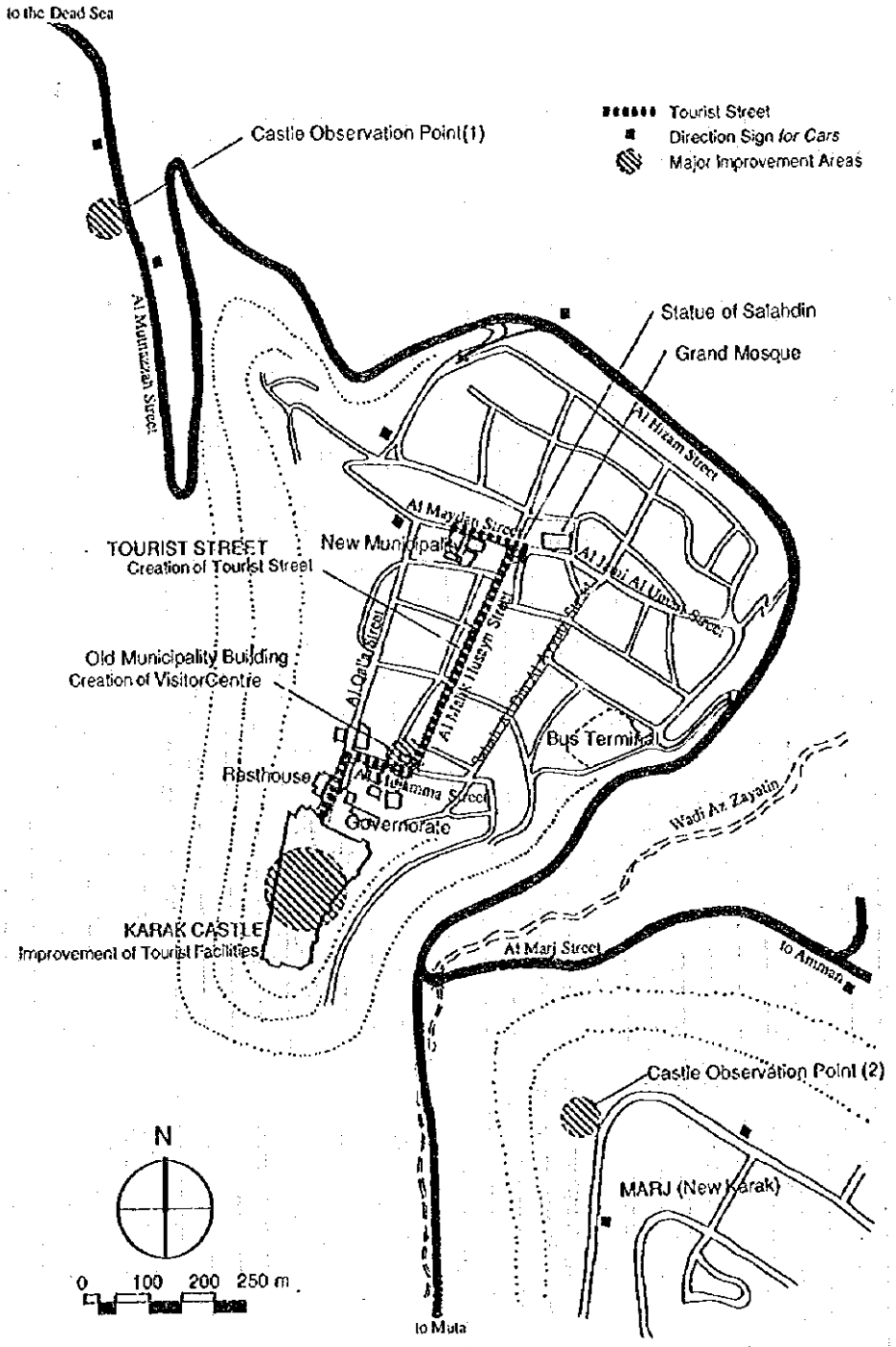
環境整備：初期環境評価（ＩＥＥ）実施した。環境アセスメント（ＥＩＡ）の必要はない。

組織・制度：文化財保全ー観光省遺跡局が監督・実施する。
地域社会に対する影響ープロジェクトについての住民参加による集会が望ましい。

業務実施：観光・遺跡省が市役所を主導して実施する。

計画評価：経済分析の結果、当該プロジェクトの経済内部収益率（EIRR）は23.5%と高い評価を示している。

図－２７　カラク観光開発プロジェクト構成図



5．実施５ヶ年計画

計画の評価

（１）経済分析

ここに提示した６つの観光開発プロジェクトの評価手法として、プロジェクト個々の収支バランスを見る財務分析評価は適しておらず、ジョルダン国経済全体への開発効果を評価する経済分析が適している。本分析では当該プロジェクト実施による観光客宿泊日数の増加分（延長分）と宿泊代金、入場料金等を含む宿泊観光客一人当たりの平均支出費用（１００米ドル／人／日）の積を便益額として算出した。個々のプロジェクトに関する経済分析評価は下記のとおりで、概ね高い評価を示している。

プロジェクト名称		経済内部収益率（EIRR）
１）アンマン・ダウンタウン観光ゾーン	:	20.2 %
２）国立博物館	:	53.3 %
３）サルト歴史地区修景プロジェクト	:	17.1 %
４）死海展望台コンプレックス	:	22.8 %
５）死海・マダバ・パークウェイ	:	23.0 %
６）カラク観光開発	:	23.5 %

（２）公共投資所要量

６つの観光開発プロジェクトの2000年までの５ヵ年計画では、総投資額は75.7百万米ドルとなる。その中で最大の投資プロジェクトは、アンマン・ダウンタウン観光ゾーン整備プロジェクトで約21百万米ドルが計上されている。最も少ない投資プロジェクトは死海・マダバ・パークウェイ プロジェクトで約7.5百米ドルである。本５ヵ年計画期間中では1999年に最大投資総額約31百万米ドルが計上されている。

年次別６プロジェクトの投資総額

（単位：百万米ドル）

	1996	1997	1998	1999	2000	1996~2000
投資総額	2.1	5.8	23.7	31.0	13.1	75.7

提　言

六つのプロジェクト開発はすべて、ジョルダン経済の発展に寄与するのみならず、国際観光市場における観光地ジョルダンの地位強化に役立つものである。国立博物館プロジェクトは観光開発の分野を超えたナショナルプロジェクトとして推進するのが望ましい。

アンマンとその周辺で展開される６つのプロジェクトは、各サイトに十分魅力的な観光プロダクト（観光関連施設や商品）が準備されればペトラの魅力と相まって、国際観光市場におけるジョルダンの競争力向上に大きく寄与する。

市場開発効果を最大にするためには、提案された６つのプロジェクトを同時・並行して実施することが不可欠である。大きな相乗効果が期待できるからである。

図--28 実施5ヵ年計画一覧

Amman Downtown Tourist Zone	96	97	98	99	2000	US$ million
a. Tourist Street						2.3
b. Tourist Trails				District Office	Museum	2.5
c. Municipal Museum						2.3
d. Tourist Bus Terminal						12.7
e. Information Centre	Interim				Permanent	0.7
f. Training				Overseas	Domestic	0.3
Cost in US$ million	0.9	1.8	8.8	7.8	1.5	20.8

National Museum	96	97	98	99	2000	US$ million
a. Building construction						10.0
(F.F.E)						3.5
b. Human Resources				Training	Training	1.0
Cost in US$ million		0.4	0.5	4.8	8.8	14.5

Historic Old Salt	96	97	98	99	2000	US$ million
a. Visitor Centre						2.3
b. Tourist Trails				Model Trails		5.0
				Nodes		
					Panorama	
c. Training				Overseas	Domestic	0.3
Cost in US$ million	0.2	0.6	4.1	2.6	0.1	7.6

Dead Sea Panoramic Complex	96	97	98	99	2000	US$ million
a. Rest House (with Panorama Spa)						9.6
b. Dead Sea Museum						2.1
c. Cable Car						6.0
d. Infrastructure						1.7
Cost in US$ million	0.5	0.7	6.7	11.5		19.4

Madaba - Dead Sea Parkway	96	97	98	99	2000	US$ million
a. Planning and Design						0.9
b. Road Construction						6.0
c. Landscape and Supporting Facilities						0.6
Cost in US$ million	0.2	0.2	0.2	4.2	2.7	7.5

Karak Tourism Development	96	97	98	99	2000	US$ million
a. Castle						2.4
b. Tourist Street						2.4
c. Visitor Centre						0.35
d. Observation Points						0.45
e. Training			Overseas	Domestic		0.3
Cost in US$ million	0.3	2.1	3.4	0.1		5.9

Cost Grand Total in US$ million	2.1	5.8	23.7	31.0	13.1	75.7

B/D D/D Implementation

JICA